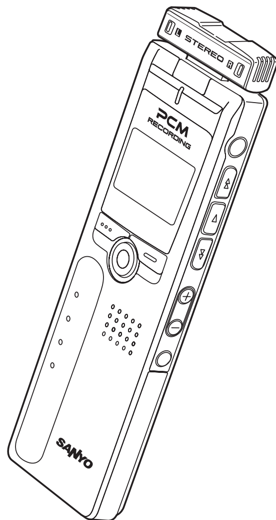
取扱説明書

SANYO

保証書付

ステレオデジタルボイスレコーダー

品番 ICR-PS380RM



お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前に必ず取扱説明書をよくお読みいただき、後々のために大切に保管してください。

- この取扱説明書は「保証書付」です。「お買い上げ日」「販売店」などの記入を必ず確かめ、販売店よりお受け取りください。

取扱説明書には色記号の表示を省略しています。
包装箱に表示している品番の（　　）内の記号が色記号です。

本機のご使用または故障により生じた損害、逸失した利益、ご使用に要した費用または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いません。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

安全のため必ずお守りください。

■絵表示について

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることがあります。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵表示の例

△	「注意 (警告を含む) をうながす事項」 を示します。
⃠	「してはいけない行為 (禁止事項)」 を示します。

本体について



■ 分解・改造しない


分解禁止

本機を分解、改造しないでください。
火災、感電の原因となります。内部の点検および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 運転中は使用しない


禁止

自動車、オートバイ、自転車などの運転をしながらヘッドホンやイヤホンなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因になります。
また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に十分ご注意ください。

■ 内部に水や異物を入れない、また風呂やシャワー室で使用しない


水場禁止

水や異物が入ると火災や感電の原因になります。
万一、水や異物が入ったときは、電池を抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ 大音量で長時間続けて聞きすぎない


禁止

ヘッドホンやイヤホンで聞くときに耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがありますのでご注意ください。
また、突然大きな音がでて耳を痛めることがありますのでボリュームは徐々に上げるようご注意ください。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告

■ 極端な温度条件のもとでは使用しない


禁止

結露などによる火災や感電の原因になります。
温度が 5℃未満、または 35℃を超える場所では使用しないでください。
湿気の多い場所で使用しないでください。身に付けている場合は、汗による湿気で故障の原因となることがあります。
水ぬれや湿気で故障と判明した場合は、保証の対象外となり無料修理はできません。

■ 置き場所に注意


禁止

湿気、ほこりの多い場所や、油煙、湯気が当たる場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
また、窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など温度が高くなる場所に放置しないでください。火災、故障の原因となることがあります。

⚠ 注意

■ 電磁波の強い場所では使用しない


禁止

高圧ケーブルや携帯電話など、電磁波の強い場所やデバイスの近くでの録音はノイズが入りますので避けてください。

■ 磁気の発生や影響する場所に近づけない


注意

磁気の発生する近くに本機を置かないでください。また、本機を磁気カード類とも一緒にしないでください。磁気データが壊れて使用できなくなることがあります。

電池について

安全上のご注意 （下の内容は、⚠の印がある電池に該当します）		電池の種類と危険の度合い	
		エネループ （ニッケル水素電池）	アルカリ電池
 禁止	**■ 充電池はエネループ以外を使用しない** ● エネループ以外は使用しないでください。安全のため、模造品は使用しないでください。エネループ以外を使用すると、電池が発熱、破裂、液漏れなどを起こし、火災、けが、やけどや周囲を汚損する原因となります。	⚠ 危険	ー
 注意	**■ 液漏れ、変色、変形、外傷、変なにおいなどに気付いたときは、すぐに取り出して使用を中止し、火気から遠ざける** ● 異常状態のまま使用を続けると、発火、破裂、電解液の噴出、発煙の原因となります。 ● 液漏れしている場合は、火気に近づけると電池の電解液に引火し、発火、破裂、電解液の噴出、発煙の原因となります。	⚠ 危険	

安全上のご注意 （下の内容は、⚠の印がある電池に該当します）	電池の種類と危険の度合い	
	エネループ（ニッケル水素電池）	アルカリ電池
分解禁止 ■ 変形・分解・改造しない ● 変形、分解、電池に直接ハンダづけするなどの改造をすると、発火、破裂、電解液の噴出、液漏れの原因となります。	⚠ 危険	⚠ 警告
禁止 ■ プラスとマイナスを針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しない ● ショート状態になり、過大な電流が流れ、発火、破裂、電解液の噴出、液漏れ、発熱の原因となります。また、針金やネックレスなどの金属が発熱する原因となります。	⚠ 危険	⚠ 警告
禁止 ■ 火中に投入したり、加熱しない ● 絶縁物が溶けたり、安全機構を損傷したり、電解液に引火したりするため、発火や破裂の原因となります。	⚠ 危険	⚠ 警告
禁止 ■ 本機、または指定された充電器以外では充電しない ● 他の充電器で充電すると、過度あるいは異常な電流での充電状態となって電池内で異常な化学反応が起こり、発火、破裂、電解液の噴出、液漏れ、発熱の原因となります。	⚠ 危険	ー
禁止 ■ 外装をはがしたり、傷つけたりしない ● 外装をはがす、釘を刺す、ハンマーで叩く、踏みつけるなどをすると電池内部でショート状態となり、発火、破裂、電解液の噴出、液漏れ、発熱の原因となります。	⚠ 危険	⚠ 警告
注意 ■ 指示通りに入れる ● 極性（プラスとマイナス）に注意し、表示通りに入れてください。 ● 万一極性を逆に入れた場合、充電時には異常な化学反応が起こったり、使用時には異常な電流が流れたりして、発火、破裂、電解液の噴出、液漏れ、発熱の原因となります。	⚠ 危険	⚠ 警告
禁止 ■ 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止める ● そのままつづけて充電すると、発火、破裂、電解液の噴出、液漏れ、発熱の原因となります。	⚠ 危険	ー

安全上のご注意（つづき）

安全上のご注意 （下の内容は、⚠の印がある電池に該当します）		電池の種類と危険の度合い	
		エネループ （ニッケル水素電池）	アルカリ電池
⚠ 注意	**■ 充電して使う** ●エネループが消耗したときは、必ず充電してからご使用ください。充電中に電池が温かくなることがありますが、異常ではありません。 ●乾電池は充電しないでください。 ●本機以外で充電するときは、エネループ対応の充電器を使用し、充電器の「取扱説明書」に従って正しく充電してください。	⚠注意	ー
禁止	**■ 使用しているときに電池を抜かない** ●本機を使用しているときには電池を抜かないでください。データが壊れたり、故障の原因となります。	⚠警告	
⚠ 注意	**■ 録音や、録音内容を消去するときは、残量を確認する** ●録音中に電池残量表示の目盛りがなくなったときは、すぐに録音をやめて、充電または新しい電池に交換してください。 ●消去の途中で電池切れになると、録音内容は消去できません。	⚠注意	
禁止	**■ 長時間入れたままにしない** ●本機を長時間（1 週間程度）使用しないときは電池を取り出して、涼しい場所で保管してください。	⚠警告	

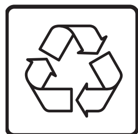
電池が液漏れしたとき

液が本体内部に残ることがありますので、当社のお客さまご相談窓口にご相談ください。液が目に入ったときは、失明の原因になりますので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、ただちに医師に相談してください。液が身体や衣服についたときも、やけどなどの原因になりますので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症などの症状がでたときには、医師に相談してください。

■ 充電式電池の廃棄について

エネループ（ニッケル水素電池）はリサイクルシステムが整備されています。寿命がきたり不要になった充電池は、（＋）（－）端子部にテープなどを貼って、リサイクルマークのある協力店や特定の回収窓口にある回収 BOX へお入れください。

充電式電池の回収やリサイクルおよびリサイクル協力店については、有限責任中間法人 JBRC のホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html をご参照ください。





充電式電池回収 BOX

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビに近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

著作権について

放送や MD、CD、レコード、その他の録音物の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。

あなたが録音したものは個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

実演や興行の中には、個人として楽しむ目的であっても録音を制限している場合がありますのでご注意ください。

必ずお読みください

本機の使用中､万一何らかの不具合により､録音の失敗および録音内容 (データ) の損失を防ぐために

1. 録音前には必ず試し録音をしてください。

2. 録音データを他の機器にバックアップしてください。

3. 電池の残量が充分にある電池をお使いください。

本機の不具合によるデータ損失や機会損失などの補償については、当社では責任を負いません。また、修理でのデータ消去を伴う事項が発生しても、補償については当社では責任を負いません。あらかじめご了承ください。

本機およびパソコンの不具合により、転送やダウンロードができなかった場合、またはファイルが破損、消去された場合、ファイル内容の保障はいたしません。

登録商標についての注意



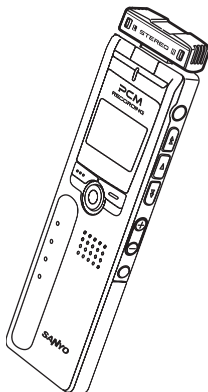
- Microsoft、Windows Media™ および Window Ⓡ ロゴは米国およびその他の国における米国 Microsoft Corporation の商標または登録商標です。
- Windows Media™ Player は Microsoft Corporation の商標または登録商標です。
- その他､本書で登場するシステム名､製品名は一般に各開発メーカーの商標あるいは登録商標です。なお、本文中では ™、Ⓡマークは明記していません。

※本書は製品開発に先がけて印刷されており、その後性能改善や操作性向上のため製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。

付属品を確認する

箱から出してそろっているかお確かめください。

●ステレオデジタルボイス
レコーダー本体……………………………………… 1

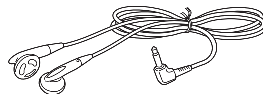


●単4形充電式ニッケル水素電池（エネループ） … 1

●本書（保証書付） ………………………………… 1

●かんたん操作ガイド……………………………… 1

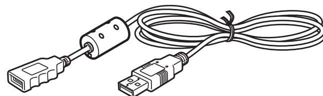
●インナーイヤー型
ステレオヘッドホン ……………………………… 1





本機ではリモコン付きなどの4極プラグ端子ステレオヘッドホンは使えません。

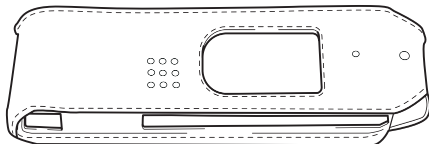
●専用 USB 接続ケーブル ……………………………… 1



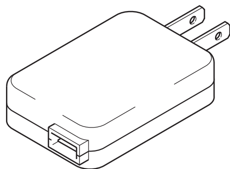
関連商品（別売）について

本機をより便利にご使用いただくための別売品のご紹介です。

- 三脚穴付きケース (KA-ICRBK2) …………………… 1
  三脚穴付きケースを使用することにより、三脚への取付けが可能です。
  ☞ 53 ページ



- USB AC アダプター (D-5V-USB2) ………………… 1
  AC 動作モード（外部電源）で使用できます。
  ☞ 18 ページ
  パソコンを使わず簡単充電できます。
  ☞ 108 ページ



ICR-PS380RMでできること

大容量4GBメモリ内蔵

一般領域 2GB、セキュリティ領域 2GB の計 4GB のメモリを内蔵することにより、ステレオ録音で合計最長約 278 時間の録音が可能です。また、PCM 録音の場合は約 6 時間の録音が可能です。

☞ 29 ページ

ごみ箱機能

ごみ箱機能設定を「ON」にしておくと、消去したファイルがごみ箱に移動します。
ごみ箱を空にするか、またはごみ箱に入っているファイルを元のフォルダに戻すまで、ファイルが残っているので、間違って消去した時でも安心です。

☞ 65 ページ

録音機能

■ リニアPCM※1録音/MP3録音

リニア PCM 録音に対応し、CD と同じ録音形式で録音できます。

☞ 37 ページ

● リニアPCM※1録音とは

アナログ信号である音声を一定の周期でサンプリングし、デジタル信号として保存することを言います。
音楽 CD（CD-DA：CD Digital Audio）は、PCM（サンプリング周波数 44.1kHz、量子化 16 ビット、ビットレート 1411kbps、周波数特性 20 ～ 20000Hz）で録音されています。PCM 録音は、デジタルデータで記録された音声に何の加工も加えないため、音質が最も優れています。
PCM 録音されたデータをパソコンで取り込む形式を「WAVE」（「ウェブ」「ワブ」）などと呼びます。データ拡張子は「.WAV」です。Windows 標準の音声ファイル形式で、Windows Media Player での再生が可能です。
MP3、WMA などの形式は、このリニア PCM を圧縮したものです。

※ 1 リニア（非圧縮）PCM：Pulse Code M odulation

■ チルトアップ式高性能ステレオマイクを搭載

チルトアップ式高性能ステレオマイクを搭載し、使用場面に合わせてマイクの角度を変えることができます。

☞ 36 ページ

■オートレベルコントロール（マイクALC）機能

使用場面に合わせて、マイク感度の切り換えができます。
会議や商談、講演やインタビューの録音時など、自動的に音量を一定に近づけて録音したいときは、マイク ALC を ON に、楽器のお稽古など、より原音を忠実に録音したいときは、マイク ALC を OFF に設定することにより、録音対象に応じた最適な録音レベルに調整できます。また、マイク ALC を OFF に設定したときは、31 段階の録音レベルの設定が可能です。
☞ 39 ページ

■ダイレクト（ライン入力）録音

コンポやラジカセ、MD プレイヤーなどの外部機器と接続して、高音質 (XHQ モード、128kbps) ダビングが可能です。
☞ 48 ページ

音楽再生機能

■音楽ファイル再生機能

パソコンから音楽ファイルを本機に転送することにより、本機をミュージック プレイヤーとして使用することができます。
また、本機は音楽配信技術 WMA DRM10 に対応しています。
☞ 59 ページ

セキュリティ機能

音声やデータを守るセキュリティ機能を搭載しています。セキュリティ領域に録音、保存することにより、他人に知られたくない音声やデータを暗証番号でロックすることができます。
☞ 86 ページ

データ転送機能

■高速データ転送機能

本機とパソコンを USB2.0 接続することにより、エクスプローラーで高速データ転送が可能です。
☞ 104 ページ



■USBフラッシュメモリー機能

パソコン上のビジネス文書やプレゼン資料を本機に保存することができます。

☞ 104 ページ

付属品について

■エネループ

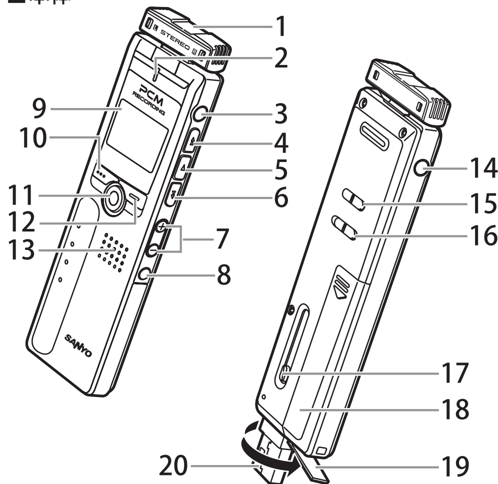
環境に優しい単 4 形エネループ 1 本が標準で付属しています。エネループ使用時は、約 19 時間のステレオ録音、単 4 アルカリ電池 1 本使用時は約 25 時間のステレオ録音が可能です。（SP モード、録音 LED・バックライト OFF 時）

エネループについての詳細は当社ホームページをご覧ください。

http://www.sanyo.co.jp/eneloop/

各部のなまえ

■本体





お買い上げ時点では「音声ガイド」が「ON」に設定されていますので、操作時に音声ガイドが鳴ります。慣れるまではこの状態でお使いになることをおすすめします。(音声ガイドをOFFにするには☞97ページ)

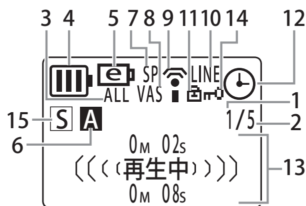
1 内蔵ステレオマイク☞36ページ
2 録音LED☞33、34、44、99、108ページ
3 外部入力端子(マイク/ライン入力端子兼用)☞30、48、151ページ
4 [▶▶I]ボタン☞44、54、87、92、108ページ
5 [▶]ボタン☞55、58、59、64ページ
6 [I◀◀]ボタン☞44、54、87、92ページ
7 音量ボタン(+、−)☞56ページ
8 フォルダ/インデックスボタン☞34、54、72、89ページ
9 液晶パネル☞14ページ
10 消去ボタン☞68、70、72、75ページ
11 一時停止/録音ボタン☞33、34、43、46ページ
12 メニュー/停止ボタン☞22、31、33、35、92ページ
13 スピーカー
14 ヘッドホン端子☞36、56、150ページ
15 電源/ホールドスイッチ☞20、21ページ
16 再生スピードスイッチ☞57ページ
17 USB端子スライドスイッチ☞104ページ
18 電池ぶた☞16ページ
19 USB端子カバー☞104ページ(回転させることができます)
20 USB端子☞104ページ

つづく

各部のなまえ(つづき)

■液晶パネル

[すべての画面を一度に表示することはできません]



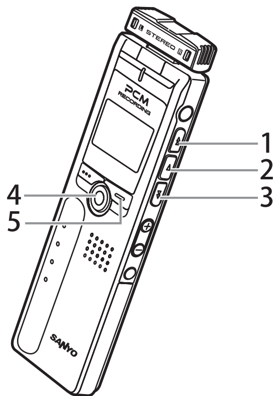
コントラストの調整
液晶パネルのコントラストの調整をすることができます。☞101ページ

- 以降、音声ガイドの音声を 🔈『　』で表示しています。

1 ファイル番号
2 ファイル総数
3 リピート/ランダム
4 電池残量
5 電池切換(e: エネループ、A: アルカリ電池)
6 フォルダ名
7 録音モード(XHQ, HQ, SP, LP, PCM)
8 VAS(音声起動録音)
9 マイク感度
10 外部録音(MIC, LINE)
11 再生ロック/アンロック
12 タイマー/アラーム
13 各種情報表示
(録音残時間、録音経過時間、曲名、ファイル名、アーティスト名、再生総時間、再生経過時間、動作/ファイル種別、現在日時など)
14 セキュリティ設定ON/OFF
15 セキュリティ領域表示

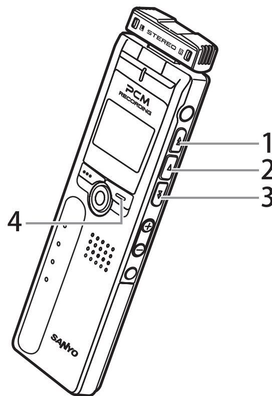
基本操作

■録音と再生操作時



1 早送り/次のファイルに移動
2 再生
3 巻き戻し/一つ前のファイルに移動
4 録音/一時停止
5 停止

■設定メニュー操作時

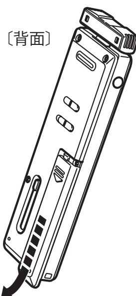


1 カーソルを上方向に移動
2 決定
3 カーソルを下方向に移動
4 前に戻る/メニューモードを終了

電池を入れる

故障やデータ破壊のおそれがありますので、電池を交換するときは電源を切ってください。

1



電池ぶたをあける

2



エネループ（付属）を入れて電池ぶたを閉める

- ⊕、⊖の向きを間違えないでください。

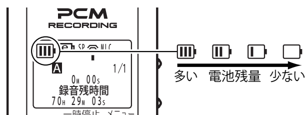


市販の単4アルカリ電池を使うこともできます。（充電はしないでください。）



- アルカリ電池を使う場合は、電池切換で「アルカリ電池」を選んでください。
  ☞98ページ
- 電池は、温度が5℃～ 35℃の環境でご使用ください。特に、夏の車内には放置しないでください。
- 使い切った電池は各地方自治体の指示（条例）に従って処分してください。
  充電式電池の廃棄について
  ☞7ページ

■電池残量表示



□で充電する、あるいは新しい電池に交換する

『電池を交換してください』あるいは『電池を充電してください』

● 電池が切れると“電池切れです”表示後、画面が消灯します。

エネループの充電については

☞108ページ



周囲の温度や使用状態などにより、電池残量の表示状態が変わるため、残量表示はおよその目安と考えてください。

AC動作モード（外部電源）で使用する

■USB ACアダプター（別売）で使用する場合

1 USB ACアダプターをコンセントに差し込む

2 パワーオフ（電源「切」）の状態で[▶]を押しながら本機をUSB ACアダプターへ接続する



⇨"HELLO"が表示されます。

3 電源スイッチを「入」側にする

- 電源「切」のままでは、ホールド（誤動作防止）機能が働いているため操作できません。「入」側にしてからご使用ください。



- USB ACアダプター使用時の連続録音時間は最大6時間です。6時間以上録音したい場合は再度[録音]ボタンを押してください。
- **PCMモードで録音した場合、1回（1ファイル）の最大録音時間は3時間です。**
- 録音可能時間が6時間未満の場合は録音可能時間終了時に自動で録音が終了します。

■パソコンで使用する場合

1 パワーオフ（電源「切」）の状態で[▶]を押しながら本機をパソコンのUSB端子へ接続する



⇨"HELLO"が表示されます。

2 電源スイッチを「入」側にする

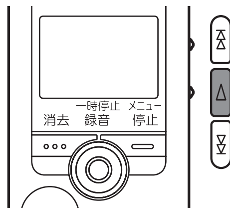
● 電源「切」のままでは、ホールド（誤動作防止）機能が働いているため操作できません。「入」側にしてからご使用ください。

メモ

● パワーオンしている状態で[▶]を押しながら接続すると外部メディアとして認識されるため電源供給はされません。
● パソコンから電源を供給して使用する場合の連続録音時間は最大6時間です。6時間以上録音したい場合は再度[録音]ボタンを押してください。
● **PCMモードで録音した場合、1回（1ファイル）の最大録音時間は3時間です。**
● 録音可能時間が6時間未満の場合は録音可能時間終了時に自動で録音が終了します。

■本機をUSB ACアダプターやパソコンから取り外す場合

1 停止状態（メニューモード画面時は無効）で[▶]ボタンを長押しして電源を切り、AC動作モードを解除する



⇨"SEE YOU !"と表示後、液晶パネルの表示が消えます。

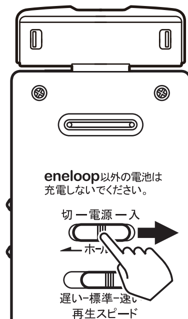
2 本機を取り外す

● 本機を取り外した後は、本機背面の[電源]スイッチを「切」側にしてください。

● AC動作モードでの1ファイル当たりの最大録音時間は6時間です。6時間以上録音する場合は、一度停止し、再度新たに録音を開始するか、乾電池でご使用ください。
● AC動作モードでは、スピーカーから音は出ません。ヘッドホンをご使用ください。
● 本機をUSB ACアダプターやパソコンから取り外す際は、必ずAC動作モードを解除し、液晶パネルの表示が消えていることを確認してください。再生中、録音中、ファイル消去中及びフォーマット中に本機を取り外すと、接続しているボイスレコーダーのメモリーが壊れるおそれがあります。
● 本機の使用中及び、不適切な使用や停電などにより生じた損害、逸失した利益、または修理でのデータ消去に伴う事項が発生しても、補償に関しては当社では一切責任を負いかねます。予めご了承ください。

電源を入れる/切る

〔背面〕



[電源]スイッチを「入」側にする

⇨ "HELLO!"表示後、電源が入り、前回電源を切る前に選ばれていたファイルが表示されます（レジューム機能）。

■購入後初めて電源を入れた場合

- カレンダー設定をしてください。
☞ 22 ページ

■電源を切るには

再生や録音などの停止中、[電源]スイッチを「切」側にする

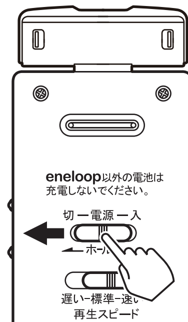
⇨ "SEE YOU!"表示後、電源が切れます。

メモ

- 電源が入った状態で約15分間放置すると自動的に電源が切れます（オートパワーオフを「ON」に設定時）。
(☞99ページ)
- 録音一時停止中に、約15分間放置すると録音中のファイルを保存した後、電源が切れます。
- オートパワーオフ機能により自動的に電源が切れた場合は、[電源]スイッチを一度「切」に戻してから、再度「入」側にしてください。
- 工場出荷時はオートパワーオフ機能は「ON」に設定されています。
- 本機が何も操作しない停止状態であっても、電源が「入」になっていると電池を消耗します。電源の切り忘れを防ぐには、オートパワーオフ機能を「ON」に設定されることをおすすめします。

ホールドON/OFF

■誤動作を防止する（ホールド）



再生中や録音中、[電源/ホールド]スイッチを「ホールド」側にする

⇨ “ホールド設定”が表示され、各ボタンが機能しなくなります。

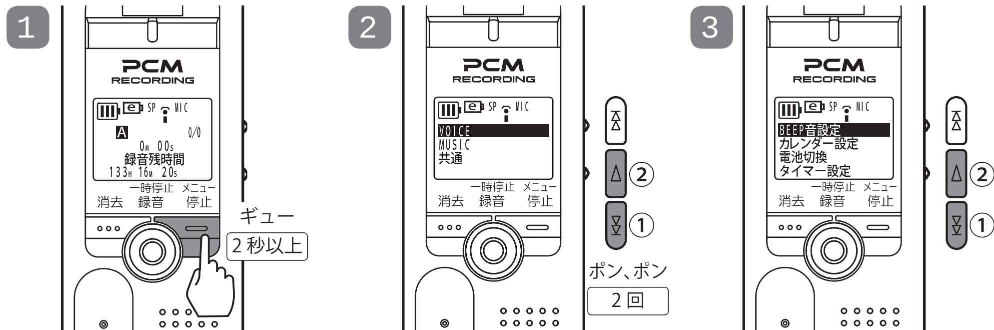
● スイッチを戻すと“ホールド解除”と表示し解除されます。

メモ

● カバンやポケットに入れているときは、誤動作防止のためホールド設定することをおすすめします。
● ホールドオン時に、録音や再生が終了すると、自動的に電源が切れます。

カレンダー(日時)を設定する

● 日付と時刻を設定しておくと、" 録音した日と時間 " の情報が、ファイルごとに自動で記録されます。
録音したファイルの管理が容易になります。



停止中、[メニュー /停止]を長押しする

『音声メニューです』

[ ]を2回押して「共通」を選び、[ ]を押す

『共通メニューです』

『ビープ音設定モードです』

[ ]を押して「カレンダー設定」を選び、[ ]を押す

『カレンダ設定モードです』

⇨ [時刻設定]画面が表示され、西暦表示が反転します。

4

[|◀◀] [▶▶|]を使って西暦を選び、[▶]を押す

⇨ 西暦が確定し、月表示が反転します。

5

同様に月、日、24/12時間表示切替（24H/AM・PM(12H)）、時、分を選んで設定する

🔈『カレンダー設定しました』

⇨ 分設定が終わるとカレンダーが設定され、前画面に戻ります。

6

[メニュー /停止]を２回押す

⇨ 元の停止中状態に戻ります。



カレンダー（日時）を設定する（つづき）

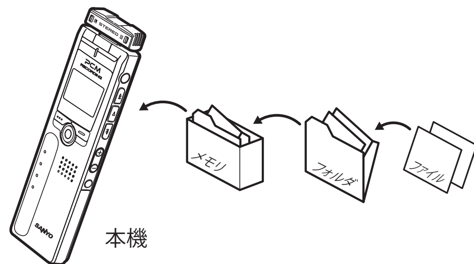


- 設定途中で間違えた場合は、［メニュー /停止］を押すと手順 3 に戻ります。最初から設定し直してください。
- 電池を抜いた状態が約10分以上続くと、カレンダー設定が保持されない場合があります。そのときは再設定してください。
- 長い期間使用していると、時刻表示がずれることがあります。その場合は、再設定してください。

フォルダについて

■本機のフォルダ/ファイルについて

1回の録音単位を「**ファイル**」、ファイルを入れておく場所を「**フォルダ**」と呼びます。本機には複数の（A、Bなど）「**フォルダ**」が用意されており、「**ファイル**」は「**フォルダ**」に収納されて本機に内蔵されている「**メモリ**」に保存されます。



● **ファイル**

録音操作（録音→停止）をするごとに作成されます。（録音順に1、2、3…とファイル番号が付きます。）

● **フォルダ**

Ａ→会議、Ｂ→英会話のレッスンなど、用途に応じてファイルの収納場所を分ければ、あとから必要なファイルを探しやすくなります。

● **メモリ**

メモリ内をどう整理するか（どのフォルダを使うか、各フォルダにファイルをいくつ入れるか）は、メモリ内の最大録音時間、最大ファイル数を超えない限り、自由に設定できます。

使用例①



使用例②



使用例③



つづく

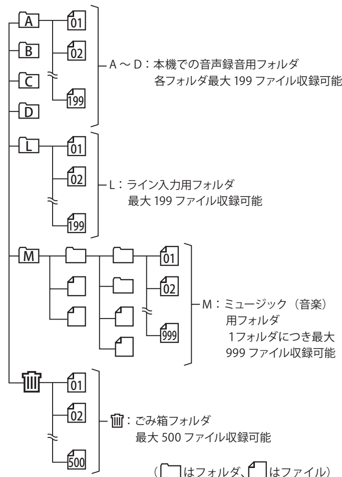
フォルダについて（つづき）

■一般領域とセキュリティ領域について

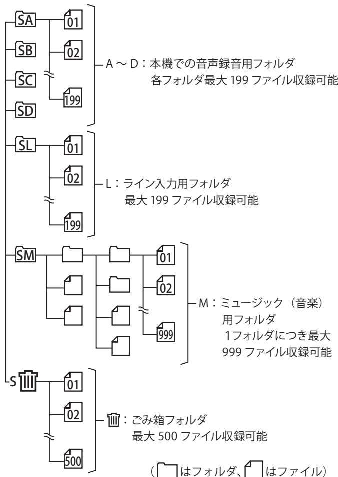
本機には複数のフォルダが用意されており、通常録音、通常再生ができる一般領域と、パスワードで再生ロックをかけるセキュリティ領域があります。それぞれの領域には、目的に応じたフォルダが用意されています。

■本機のフォルダ構成について

一般領域



セキュリティ領域



■フォルダとファイル

● A ～ D（SA ～ SD）フォルダ

Ａ～Ｄの４種類のフォルダを使って録音できます。たとえば会議はＡフォルダ、英会話はＢフォルダのように使い分けるとデータ管理に便利です。１回の録音単位をファイルと呼び、選んだフォルダに録音するごとに、ファイルが１、２、３・・と順次作成されていきます。消去操作をしない限りファイルは消えません。

● L（SL）フォルダ

Lフォルダはライン入力用フォルダです。
Lフォルダについて☞50、58ページ

● M（SM）フォルダ

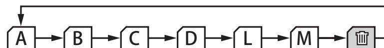
Mフォルダはパソコンから取り込んだファイルを再生するフォルダです。本機で音声の録音はできません。
Mフォルダについて☞59ページ

● ごみ箱フォルダ〔🗑〕〔S 🗑〕

ごみ箱機能「ON」時は、ごみ箱フォルダに消去したファイルが移動します。
ごみ箱フォルダの中のファイルは元に戻すことができます。間違えて消去した時でも安心です。
ごみ箱について☞65ページ

■フォルダの切り替え

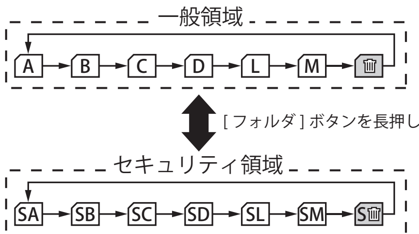
[フォルダ]ボタンを押すごとに、下図のようにフォルダが切り替わります。



※ごみ箱機能 OFF 時、ごみ箱フォルダは表示されません。

■一般領域とセキュリティ領域の切り替え

[フォルダ]ボタンを長押しすると、領域が切り替わります。



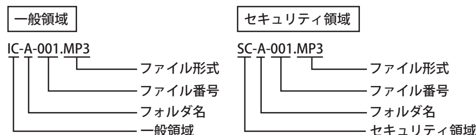
準備

つづく

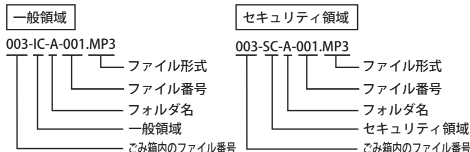
フォルダについて（つづき）

■ファイル名について

本機で録音したファイルには、以下の構成で自動的に名前がつきます。



また、ごみ箱機能を利用し、ごみ箱に移動したときは以下の構成で自動的に名前は変更されます。




PCM録音したファイルのファイル形式は"WAV"となります。
例：IC_A_001.WAV



- 何度録音しても上書きはされず、各ファイルは消えません。
- A ～ Dフォルダでは、各録音モードの最大録音時間とは別に、本機で録音できる最大ファイル数は1フォルダにつき199ファイルとなります。録音残時間が残っていても、200以上のファイルを録音することはできません。200ファイル目を録音しようとすると"ファイルが一杯です"と表示されます。空いているフォルダに切り換えるか、不要なファイルを消去してください。(☞72ページ)
- 本機で記録したMP3または、WAVファイルの名前をパソコンで変更した場合、本機で再生できなくなります。前ページのファイル名規則に則ったファイル名に戻すか、MUSICフォルダに移して再生してください。(☞59ページ)

録音について知っておきたいこと



- 長時間にわたる連続録音/再生の場合、途中で電池の交換が必要な場合があります。
- メモリ節約のため、必要なファイルはパソコンや外部機器に保存し(☞114、150ページ)、不要になったファイルは消去することをおすすめします。(☞72ページ)

■録音のコツ

- 録音場所の状況によって(風が強いなど)録音状態が異なりますので、事前にためし録音をして、適切な録音モードや感度を選択してください。
- 録音中に本体やボタンに手が触れると不要な音が録音される場合がありますのでご注意ください。

■録音モードと録音可能時間

録音可能時間とは、お買い上げ時の何も録音データなどが入っていない状態で、途中で録音モードを変更せずに最初から最後まで録音した場合の最大合計時間です。録音モードによって音質と録音可能時間が変わります。工場出荷時は「SP」ですが、用途に応じて録音モードを変更してください。☞37ページ

録音モード	最大合計時間と用途	一般領域	セキュリティ領域
PCM	約6時間：楽器練習の録音などに(圧縮変換をおこなわないため、原音をより忠実に録音します。)	約3時間	約3時間
XHQ	約69時間：楽器練習の録音などに	約34時間30分	約34時間30分
HQ	約139時間：高音質での会話録音に	約69時間30分	約69時間30分
SP	約278時間：標準音質での会話録音に	約139時間	約139時間
LP	約557時間：長時間の会話録音に(モノラル)	約278時間30分	約278時間30分

用途は一例です。



録音について知っておきたいこと(つづき)

■オートレベルコントロール(マイクALC)について

ALCとは録音状況に応じて自動的に録音レベルを調整することで、音量を一定に近づけて録音する機能です。ALC機能のON/OFFを切り替えることにより、様々な録音シーンに対応することができます。(☞39ページ)

マイクALC設定	ALC ON	ALC OFF
特長	大きい音は少し小さく、小さい音は少し大きく録音します。音割れや歪みを抑え、聞き取りに適した音声録音を行います。	音の大小をそのまま録音し、原音に忠実な音声録音を行います。
主な使用場面	会議や商談、講演やインタビューなど	楽器演奏など
感度(レベル設定)	高	29 ~ 30
	中	23 ~ 24
	低	13 ~ 14

■マイク入力/ライン入力の切り替え

本機は、メニュー設定でマイク入力とライン入力の切り替えができます。
外部マイクを使用する時はマイク入力、他のオーディオ機器とつないで録音する時はライン入力に設定します。(☞96ページ)

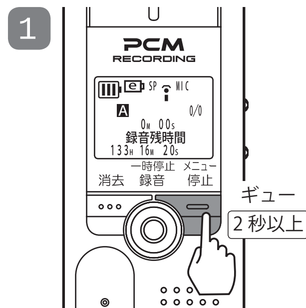
外部マイク仕様
- ● 形式:エレクトレットコンデンサー/プラグインパワー方式
- ● インピーダンス:2k Ω
- ● 電源:1.3Vにて動作保証品
- ● プラグ:ミニプラグ(3.5∅)

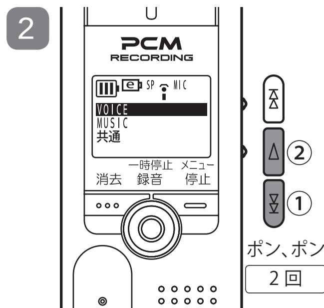


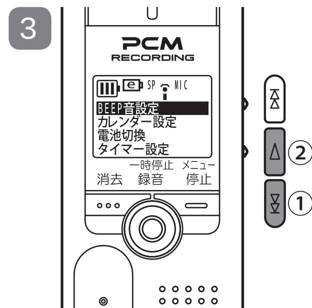
- ● コンポやラジカセ、MDプレイヤーなど外部オーディオ機器を外部入力端子に接続して録音することもできます。☞48ページ
- ● ライン入力で録音する場合は、抵抗なしのオーディオケーブルをご使用ください。
- ● 推奨品以外の外部マイクを使用された場合、正常に録音できないことがあります。

■メモリ診断

- 録音やファイル消去を繰り返しおこなうと、メモリ内のファイルの空領域の不連続性が進行し（これを断片化といいます）、まれに PCM や XHQ モードでの録音時、音とびが発生する場合があります。大事な録音の前には、メモリ診断を行い、問題があれば必要なファイルをパソコンや外部機器に保存し（☞ 114、150 ページ）、本機の内蔵メモリのフォーマット（☞ 77 ページ）をおすすめします。







停止中、[メニュー /停止]を長押しする

『音声メニューです』

[|◀◀]を2回押して「共通」を選び、[▶]を押す

『共通メニューです』

『ビープ音設定モードです』

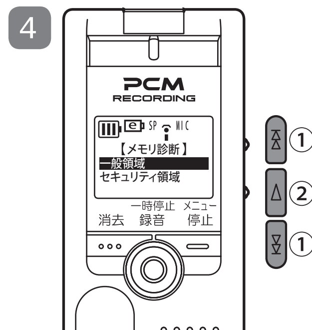
[|◀◀]を押して「メモリ診断」を選び、[▶]を押す

『メモリ診断機能です』



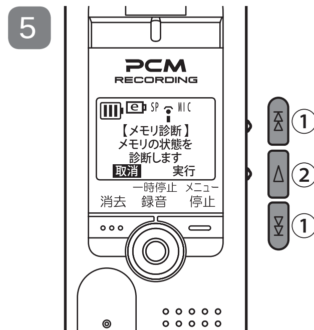
録音について知っておきたいこと（つづき）

4



[I◀◀] [▶▶I]を使って診断する領域を選び、[▶]を押す

5



[I◀◀] [▶▶I]を使って[実行]を選び、[▶]を押す

● メモリ状態が良好な場合



『メモリの状態は良好です』

● メモリ状態が良好でない場合



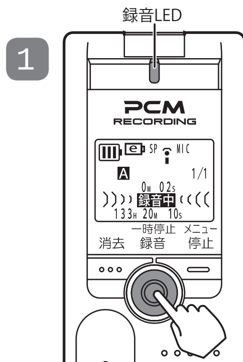
『メモリが断片化されています』

6 [▶]を押して終了する



● メモリ内のファイル状態によっては、"良好"と表示されても音とびする可能性がありますので、定期的にメモリ診断を行い、バックアップをした後フォーマットしてください。
● 音とびのない録音をしたい場合は、事前にフォーマット行ってから録音することをおすすめします。

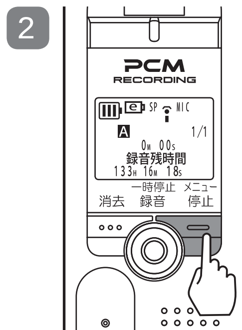
いますぐ録音してみる



[一時停止/録音]を押す

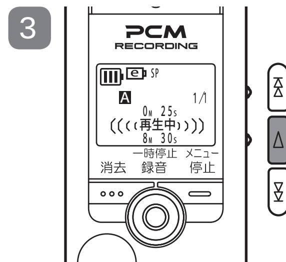
▶ **録音開始**

- 録音LED（赤）が点灯します。
- ALC OFF時は録音スタンバイ状態になります。
☞43ページ



録音を止めるとき
[メニュー /停止]を押す

▶ **録音停止**



[▶]を押す

▶ **再生開始**

- 今録音した内容が再生されます。音量や音質を確認してください。

4

再生を止めるとき
[メニュー /停止]を押す

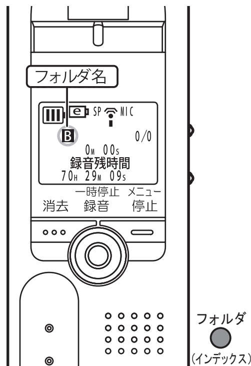
▶ **再生停止**

会話などを録音する

電池の残量が充分にあることを確認してください。

- セキュリティ領域へ録音するときは☞ 89 ページ

1



[フォルダ]を押してフォルダを選ぶ

『○フォルダ』

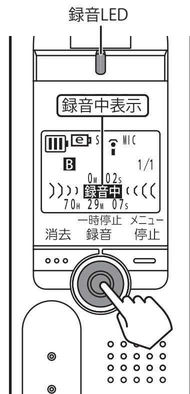
- A・B・C・Dのいずれかのフォルダを選びます。

メモ 会話などの本機で録音した音声はA～D以外のフォルダには録音されません。

A, B, C, D 本機での音声録音用フォルダ
L：ライン入力用フォルダ
M：ミュージック（音楽）用フォルダ


L・Mは選ばないでください。LまたはMフォルダを選択して録音した場合、自動的にAフォルダに録音します。Aフォルダのファイル数が199のときは録音されません。

2

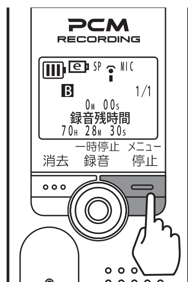


[一時停止/録音]を押す

▶ **録音開始**

- 録音LED(赤）が点灯します。
- ALC OFF時は録音スタンバイ状態になるため、録音を開始するにはもう一度[一時停止/録音]を押してください。

3



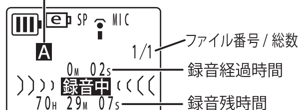
録音を止めるとき

[メニュー /停止]を押す

▷ 録音停止

● 録音LEDが消え、録音残時間を表示します。

■録音中表示



■録音を一時停止するには

録音中に[一時停止/録音]を押す

⇨ "一時停止"が表示され、録音経過時間が点滅し、一時停止します。

● もう一度[一時停止/録音]を押すと録音が再開します。

● 約15分間放置すると、電源が切れます。(オートパワーオフを「ON」に設定時)


ファイルによっては、録音経過時間と実際の経過時間が異なる場合があります。

■録音中にインデックスをつけるには

再生時の頭出しに便利なように、インデックス(本にはさむ"しおり"のようなもの)をつけることができます。

録音中、[インデックス](フォルダ)を押す

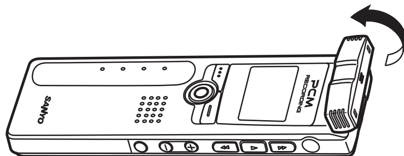
⇨ "インデックス記録中"が表示され、その箇所にインデックスがつきます。
インデックスを消去するには☞74ページ

つづく

会話などを録音する(つづき)

■**マイクの角度調節(チルトアップ)**

マイクの角度を変えることができます。机上に置いて録音するときなどにチルトアップさせると、机面からの雑音を拾いにくくなります。録音状況に合わせて調節してください。



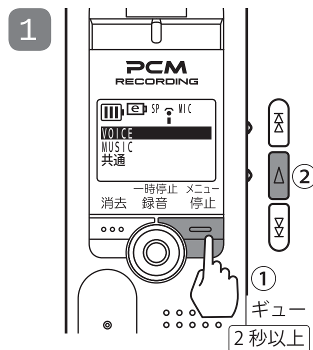

録音中に調節しないでください。雑音の原因となります。



- 録音中、ヘッドホン(付属)を接続すると、録音されている音声がモニターできます。モニター音量は、[音量 ⊕、⊖]で調節できます。
- マイク感度を変更することができます。☞39、41、43ページ
- 録音LEDを点灯しないようにすることができます。☞99ページ
- インデックスは最大 1 ファイルに32箇所つけることができます。それ以上つけようとしても”インデックスが一杯です”が表示され、記録されません。
- インデックスを消去するには☞74ページ
- インデックスは再生中でもつけることができます。☞56ページ
- 同じ位置にインデックスをつけようとすると、“インデックス記録できません”と表示され、インデックスをつけることができません。
- インデックスをつけたファイルをファイル分割するとインデックスは消えます。

録音モード(音質)を変える

1

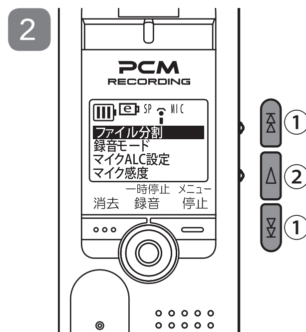


停止中、[メニュー /停止]を長押しし、VOICEが選ばれていることを確認して[▶]を押す

『音声メニューです』

『ファイル分割モードです』

2

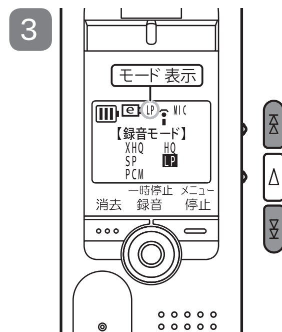


[|◀◀] [▶▶|]を押して「録音モード」を選び、[▶]を押す

『録音設定モードです』

⇨ [録音モード]画面が表示され、現在のモードが反転します。

3

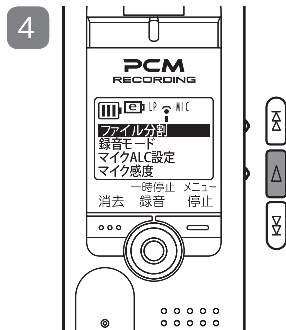


[|◀◀] [▶▶|]を使ってモードを選ぶ

PCM：PCMモード
XHQ：最高音質モード
HQ：高音質モード
SP：標準音質モード
LP：長時間モード(モノラル)

つづく

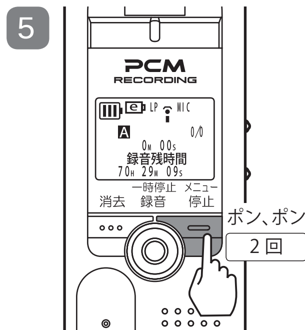
4



[▶]を押す

『○○モードに設定しました』

5



[メニュー /停止]を 2 回押す

⇨ 元の停止中状態に戻ります。

メモ

各モードの録音可能時間について29ページ



- PCMモードで録音したときは、電池持続時間が他のモード時に比べて短くなります。(☞154ページ)
- PCMモードで録音中に音とびが発生した場合は、必要なファイルをパソコンに保存し、本機の内蔵メモリのフォーマット(☞77ページ)をおすすめします。
- **PCMモードで録音した場合、1回(1ファイル)の最大録音時間は3時間です。**

オートレベルコントロール（マイクALC）を設定する

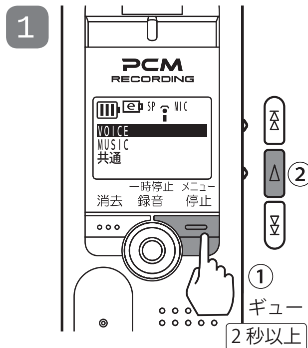
■オートレベルコントロール（マイクALC）とは

録音状況に応じて自動的に録音レベルを調整することで、音量を一定に近づけて録音する機能です。大きい音は少し小さく、また小さい音は少し大きく調整して録音します。この機能を使用して録音されたファイルは、音割れや歪みのない、聞きやすい音で再生することができます。

■使用場面に合わせて切り換えできます

マイクALC設定	ALC ON	ALC OFF
特長	大きい音は少し小さく、小さい音は少し大きく録音します。音割れや歪みを抑え、聞き取りに適した音声録音を行います。	音の大小をそのまま録音し、原音に忠実な音声録音を行います。
主な使用場面	会議や商談、講演やインタビューなど	楽器演奏など
感度（レベル設定）	高	29 ～ 30
	中	23 ～ 24
	低	13 ～ 14

1



停止中、[メニュー /停止]を長押しし、VOICEが選ばれていることを確認して[▶]を押す

『音声メニューです』

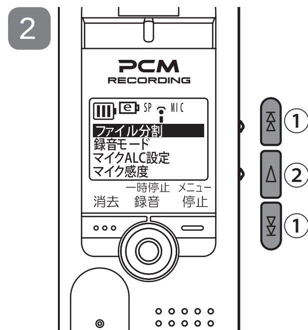
『ファイル分割モードです』

録音

つづく

オートレベルコントロール（マイクALC）を設定する（つづき）

2

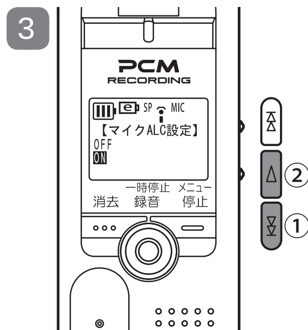


[I◀◀] [▶▶I]を使って「マイクALC設定」を選び、[▶]を押す

🔈『オートレベルコントロール設定モードです』

⇨ [マイクALC設定]画面が表示され、現在のモードが反転します。

3



[I◀◀]を押して「ON」を選び、[▶]を押す

🔈『オートレベルコントロールオンに設定しました』

メモ

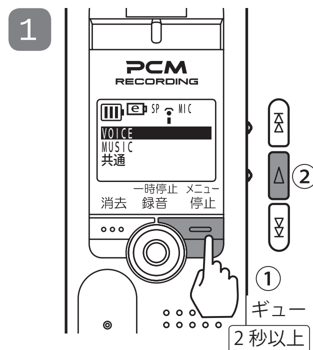
● マイクALC設定を変えると液晶パネルに表示されるアイコンが変わります。

	アイコン
ALC ON時	〜
ALC OFF時	0 〜 30

（工場出荷時の設定：15）

※ 0に設定時は無音が録音されます。

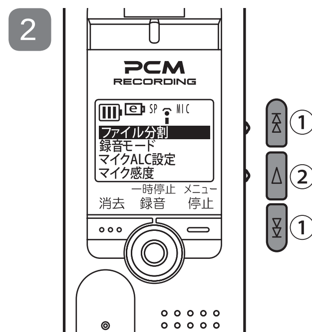
お好みのマイク感度に設定する（マイクALC ON）



停止中、[メニュー /停止]を長押しし、VOICEが選ばれていることを確認して[▶]を押す

🔈『音声メニューです』

🔈『ファイル分割モードです』



[|◀◀] [▶▶|]を使って「マイク感度」を選び、[▶]を押す

🔈『マイク感度設定モードです』

⇨ [マイク感度]画面が表示され、現在のモードが反転します。



[|◀◀] [▶▶|]を使ってマイク感度を選ぶ

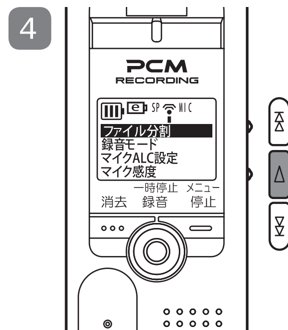
高：録音高感度
中：録音中感度
低：録音低感度

録音

つづく

お好みのマイク感度に設定する（マイクALC ON）（つづき）

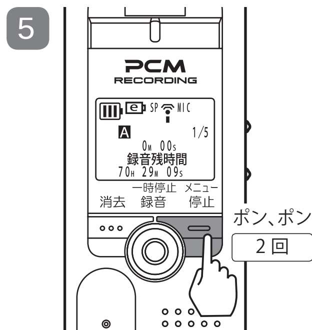
4



[▶]を押す

🔈『録音○感度に設定しました』

5

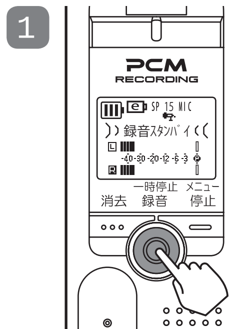


[メニュー /停止]を 2 回押す

⇨ 設定ができました。

お好みのマイク感度に設定する（マイクALC OFF）

1



[一時停止/録音]を押して録音スタンバイ状態にする

● 録音したい音の方向にマイクを向けます



停止中はマイク感度を変えることはできません

2



[|◀◀] [▶▶|]を使ってマイク感度を選ぶ

● マイク感度は31段階で調整できます。（[0]～[30]）

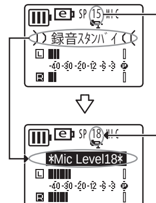
※0に設定時は無音が録音されます。



録音スタンバイ中は録音されません。調整後、[一時停止/録音]を押して録音を開始してください。



● マイク感度調整中は、次のように液晶パネルの表示が変わります。



● 録音中にマイク感度を調整した時は、液晶パネルの表示は[0]～[30]のみです。

● 設定したマイク感度は、次回録音時にも記憶されています。

● 録音中に調整すると雑音の原因となりますので、録音スタンバイ状態で調整することをおすすめします。

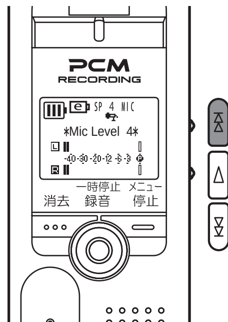
マイク感度の調整方法

● マイク ALC OFF 時のみ設定可能です。

■ レベルメーター表示について

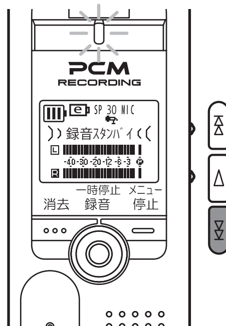
● マイクに入る音の大きさに応じてレベルメーターが左右に振れます。

● レベル値が小さいとき



レベルメーターが右に振れるように[▶▶I]を押してマイク感度を上げます。

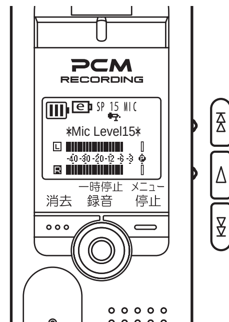
● レベル値が大きいとき



レベルメーターが右いっぱいに振れ、※録音LEDが点灯（録音LED設定が「ON」時）した場合、音が歪んで録音されます。[I◀◀]を押してマイク感度を下げてください。

※録音中に設定レベルを超えた場合は、[PEAK]が表示されます。

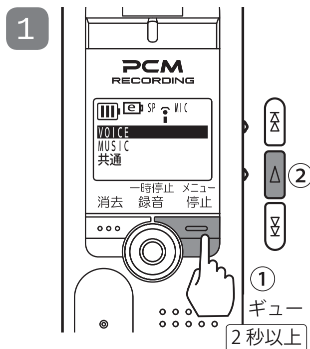
● 最適な設定値



録音したい音が最も大きな音になった場合でも、レベルメーターが右に振りきれることなく、「-3」あたりを保持している状態が最適なマイク感度です。

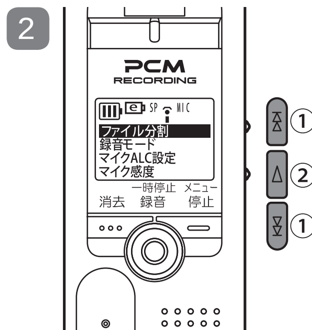
音声を感知して自動録音する（VAS）

- **マイク ALC を「OFF」に設定時、VAS 録音はできません。**
- VAS を「ON」に設定すれば、録音状態で音声を感知したときに自動的に録音を開始し、音声が一定レベル以下になると録音が自動的に一時停止（録音待機）します。
- VAS「ON」設定で録音中は、オートパワーオフ機能は働きません。



停止中、[メニュー /停止]を長押しし、VOICEが選ばれていることを確認して[▶]を押す

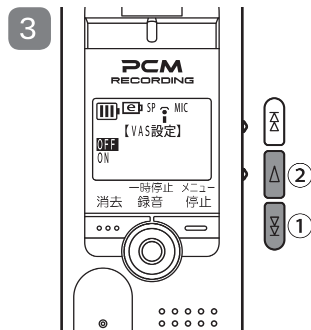
『音声メニューです』
『ファイル分割モードです』



[|◀◀] [▶▶|]を使って「VAS設定」を選び、[▶]を押す

『VAS設定モードです』

⇨ [VAS設定]画面が表示されます。



[|◀◀]を押して「ON」を選び、[▶]を押す

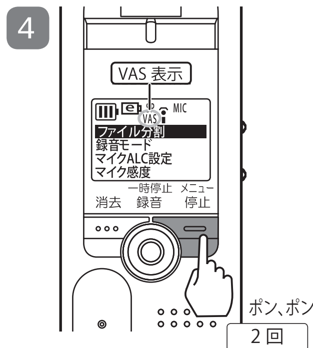
『VASオンに設定しました』

録音



音声を感知して自動録音する（VAS）（つづき）

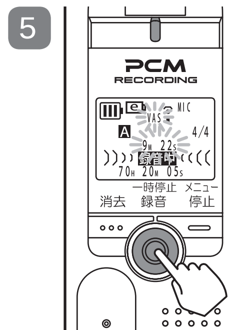
4



[メニュー /停止]を 2 回押す

⇨ VASが表示されます。

5



[一時停止/録音]を押す

▶ 録音待機

- 音声を感知すると自動的に録音が始まります。
- [メニュー /停止]を押すと停止状態になります。



- VAS設定が「ON」に設定されている状態で録音を開始すると、約2秒間は無条件に録音されます。
- 音声レベルが約2秒間設定レベル以下になると、録音を一時停止（録音待機）します。



■ 音声感知レベル設定

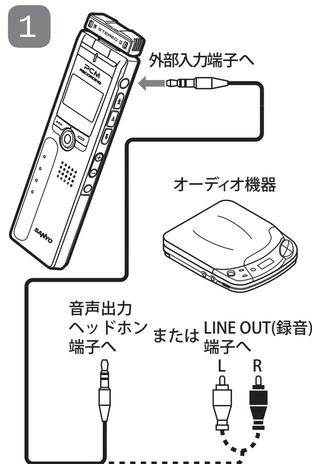
VAS設定が「ON」のときは録音中に[I◀◀]、[▶▶I]を使って音声を感知するセンサーレベルを変えることができます。
（1～5　工場出荷時＝3）

- 数値が高くなるほど小さな音がしても録音が始まりますが、雑音の多い場所であれば録音が止まらなくなる場合があります。
- 録音待機状態のとき、VAS表示と録音経過時間が点滅します。
- マイク感度を目的に応じて設定しておくとより効果的です。
  ☞39、41ページ
- 小さな音の場合は、録音しない場合がありますので、大切な録音をする場合はこの機能をOFFにしてください。
- VAS設定が「ON」に設定中でもタイマー予約録音することができます。
  ☞79ページ
- VAS録音時に[一時停止/録音]を押すと、通常の録音一時停止状態になります。（オートパワーオフを「ON」に設定時には、約15分後に自動的に電源が切れます。）

外部機器から録音する

● コンポやラジカセ、CD プレーヤーなど外部機器と接続してそれらの音楽などを録音することができます。

1



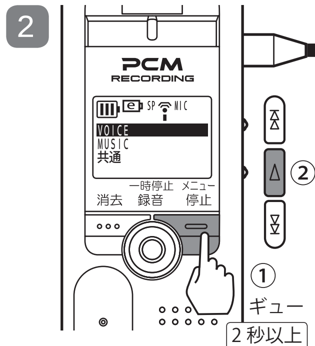
外部入力端子と外部機器の音声出力端子をつなぐ

● 市販のオーディオケーブル (ステレオミニプラグ：3.5∅、抵抗なし)を使ってください。



外部機器のヘッドホン端子に接続するときは、事前にためし録音をし、外部機器で音量の調整を行ってください。

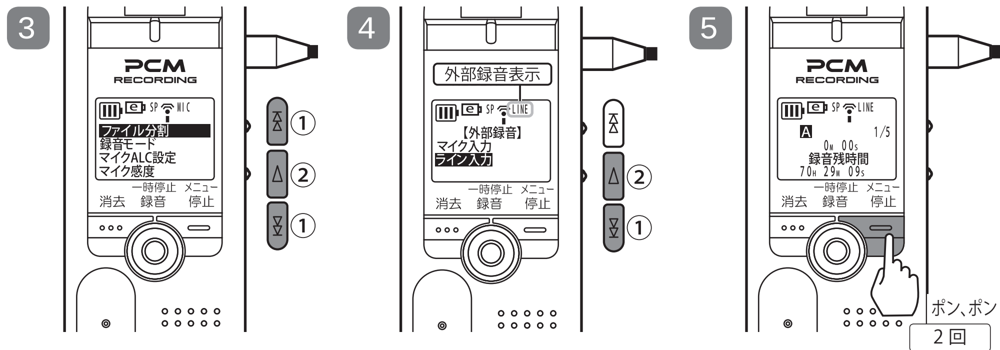
2



停止中、[メニュー /停止]を長押しし、VOICEが選ばれていることを確認して[▶]を押す

『音声メニューです』

『ファイル分割モードです』



[I◀◀] [▶▶I]を使って「外部録音」を選び、[▶]を押す

『外部録音設定モードです』

⇨ [外部録音]画面が表示されます。

[I◀◀]を押して「ライン入力」を選び、[▶]を押す

『ライン入力に設定しました』

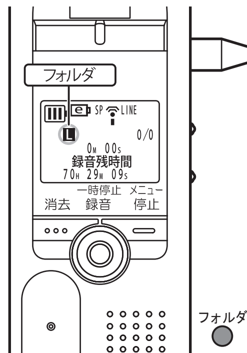
⇨ 外部録音表示が[LINE]に変わります。

[メニュー /停止]を2回押す

⇨ 元の停止中状態に戻ります。

つづく

6



[フォルダ]を押して L（LINE）フォルダを選ぶ

『ラインフォルダ』

- 他のフォルダを選んでも自動的にLフォルダに録音されます。

7

外部機器を再生し、本機の[一時停止/録音]を押して録音を始める

- 自動的にXHQモードで録音します。それ以外の録音モードは選べません。

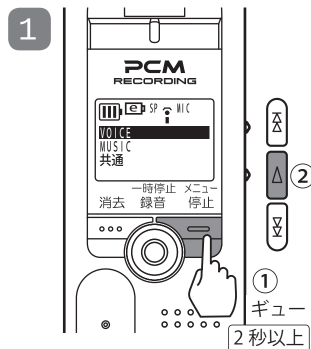


- Lフォルダの最大ファイル数は199ファイルです。録音残時間が残っていても、200以上のファイルを録音することはできません。（“ファイルが一杯です”と表示されます）
- 録音中にオーディオケーブルを抜くと録音を停止します。
- Lフォルダ内のファイルにはインデックスがつけられません。
- Lフォルダに録音時は、マイクALCが自動的に「OFF」になります。
- 「ライン入力」が設定されている状態で、外部マイク録音をした場合、無音が録音されます。

■自動無音分割を設定する

CDやMDプレーヤーから音楽を録音するときに自動無音分割を設定すると、2秒以上の無音部分を感知して、録音を一時停止し、1曲目をファイル1、2曲目をファイル2というように自動的にファイルを分割して録音します。

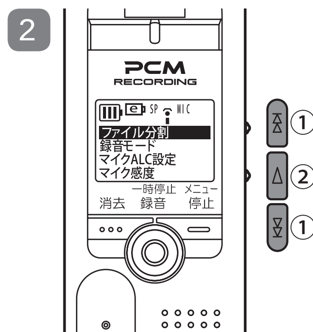
- カセットテープからの録音は、CDなどに比べノイズや雑音が多いため自動無音分割できない場合があります。



停止中、[メニュー /停止]を長押しし、VOICEが選ばれていることを確認して[▶]を押す

🔈『音声メニューです』

🔈『ファイル分割モードです』



[|◀◀] [▶▶|]を使って「自動無音分割」を選び、[▶]を押す

🔈『自動無音分割設定モードです』

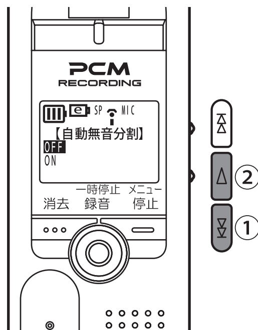
⇨ [自動無音分割]画面が表示されます。

録音

つづく

外部機器から録音する（つづき）

3



[I◀◀]を押して「ON」を選び、[▶]を押す

『自動無音分割モードオンに設定しました』



- ラジオやカセットテープ、またライブを収録したCDなど、約2秒間の無音時間が認識されないときは、自動で分割できません。ファイル分割で分割してください。
  ☞94ページ
- 約15秒以上無音を感知すると録音を自動的に停止します。

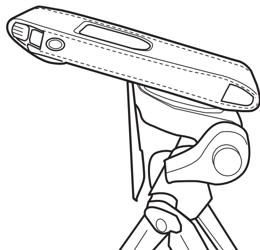
■自動無音分割を解除するには

手順 3 で「OFF」を選んで、[▶]を押してください。

関連商品（別売）の使いかた

■三脚穴付ケースの使い方

- 図のように市販のカメラ三脚（汎用品）に本機を取り付けます



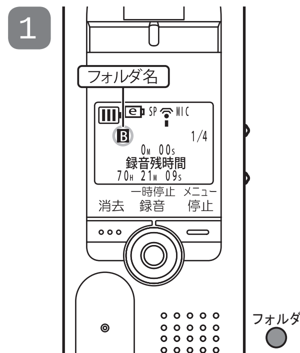
■USB ACアダプター

- AC動作モード（外部電源）で使用できます。
  ☞18ページ
- パソコンを使わず簡単充電できます。
  ☞ 108 ページ

録音した音声（A ～ Dフォルダのファイル）を再生する

● セキュリティ領域に切り替えるには（☞ 89 ページ）

1



[フォルダ]を押して再生するファイルのあるフォルダを選ぶ

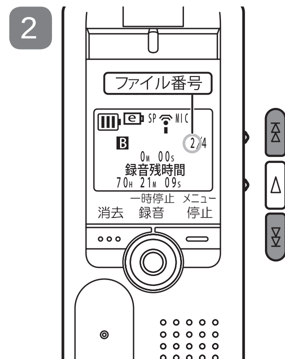
『○フォルダ』

● 押すごとにフォルダ名が変わります。A～Dから選んでください。

● Lはライン入力を録音するためのライン入力フォルダ（☞58ページ）、Mはパソコンから取り込んだミュージック（音楽）用フォルダです。（☞59ページ）

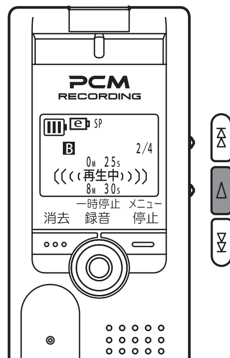
● セキュリティ設定が「ON」で、再生ロックを設定した場合のセキュリティ領域の再生には、暗証番号の入力が必要です。
☞89ページ

2



[|◀◀] [▶▶|]を使って再生したいファイル番号を選ぶ

3

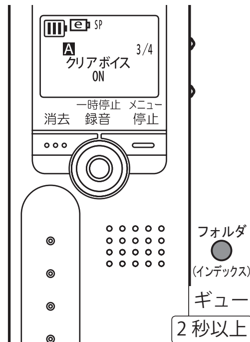


[▶]を押す

▶ 再生開始

● 同フォルダ内の最後のファイルまで再生し、止まります。

■クリアボイスを設定する

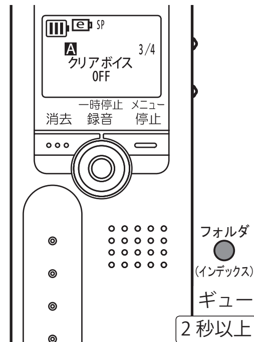


再生時に、雑音やノイズがあるときは、再生中インデックスボタンを長押しする

⇨ クリアボイス機能が働き、聞きやすくなります。
PCM、XHQやHQモードで録音した音声の再生時に使うとより効果的です。

● 録音状況によっては、雑音が軽減しない場合があります。

■クリアボイスを解除するには



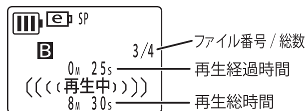
再度、インデックスボタンを長押しする

● 再生を停止すると、クリアボイスは解除されます。


クリアボイスは音声録音用フォルダ(A ～ D)内のファイルにのみ有効です。L、Mおよびごみ箱フォルダ内のファイルには設定できません。

録音した音声(A ～ Dフォルダのファイル)を再生する(つづき)

■再生中表示



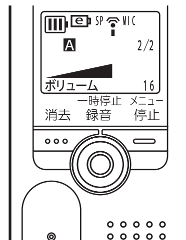
■途中で停止するには

[メニュー /停止]を押す
([▶]を押すと再開)

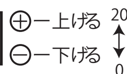
■再生中にインデックスをつけるには

再生中にインデックスボタンを押す

■音量調節



音量 ⊕、⊖ボタンで 調節する



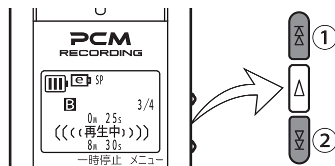
■ステレオヘッドホン(付属)を使用する

ヘッドホン端子に差し込んでください。ヘッドホンを差し込むと、スピーカーから音は出ません。



ステレオヘッドホンの抜き差しは停止状態で行ってください。

■いろいろな再生(再生中操作)



■早送り･早戻しするには

再生中、①▶▶❙を2秒以上長押しすると早送り、②❙◀◀を2秒以上長押しすると早戻しします。(離すと解除)

■ファイル送り･戻しするには

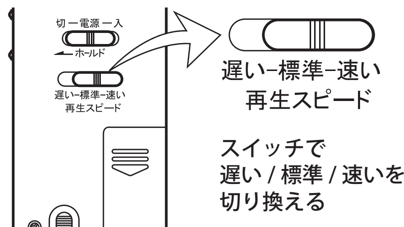
再生中または停止中に①▶▶❙をポンポンと押すごとにファイル送り、②❙◀◀をポンポンと押すごとにファイル戻しします。

■インデックス送り･戻しするには

インデックスを付けたファイルの再生中に①▶▶❙をポンポンと押すごとに次のインデックスに送り、②❙◀◀をポンポンと押すごとに前のインデックスに戻ります。

■再生スピードの切り換え

〔背面〕




PCM録音されたファイルは再生時にスピードの切り換えできません。

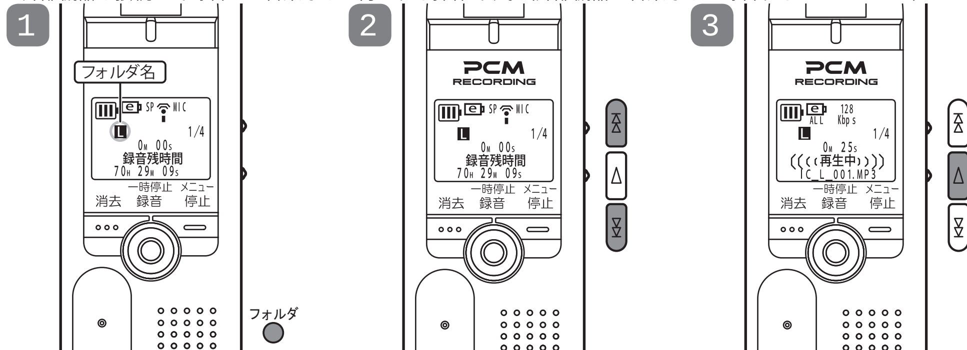


- フォルダをまたがっての｢早送り｣｢早戻し｣はできません。
- 停止中に[メニュー /停止]を押すごとに、画面表示が｢現在日時｣→｢選択中ファイルの再生総時間｣→｢選択中ファイルの録音日時｣→｢録音残時間｣と切り換わります。
- インデックスをつけたファイルを分割するとインデックスは消えます。
- インデックスは録音中につけることもできます。☞35ページ

再生

ライン入力で録音したファイル(Lフォルダのファイル)を再生する

● セキュリティ領域に切り替えるには☞ 89 ページ
● 外部機器と接続して録音した音楽などを再生する操作です。(外部機器の音楽などを録音する☞ 48 ページ)



[フォルダ]を押して L(ライン)フォルダを選ぶ

『ラインフォルダ』

[|◀◀][▶▶|]を使って再生したい曲ファイルを選ぶ

[▶]を押す

▶ **再生開始**

メモ

Lフォルダ内のファイルにはインデックスをつけることはできません。

パソコンから取り込んだファイル(Mフォルダのファイル)を再生する

- セキュリティ領域のファイルを再生する☞ 89 ページ

音楽を再生するにはパソコンから音楽ファイルを転送しておく必要があります。☞122ページ

1

[フォルダ]を押して
M(MUSIC)フォルダを
選ぶ

『ミュージックフォルダ』

2

[◀◀] [▶▶]を使って
再生したい曲ファイルを
選ぶ

- アーティスト名、曲/ファイル名が表示されます。

3

[▶]を押す

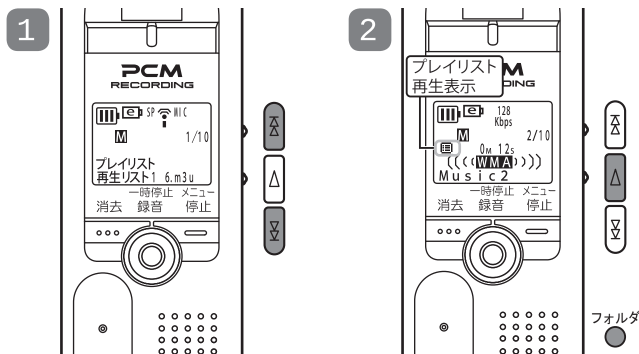
▶ 音楽再生開始



Mフォルダ内のファイルにはインデックスをつけることはできません。

■プレイリストを再生する

プレイリストの作成については☞ 138 ページ





プレイリストの内容（ドライブ名、フォルダ名、ファイル名など）に誤りがあったり、入力したファイルがMUSICフォルダ内にない場合は、時間表示が"-m--s"となり、再生はできません。

[I◀◀] [▶▶I]を使って再生したいプレイリストを選ぶ

[▶]を押す

⇨ プレイリストの曲順で再生します。

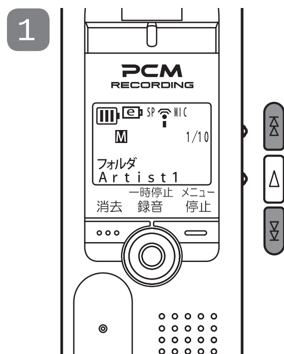
● プレイリスト再生中は[ ]と表示します。

● 通常再生に戻すには、停止中に[フォルダ]を押してください。

■フォルダを選択して再生する

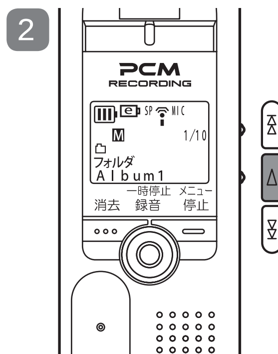
フォルダの作成については☞ 139 ページ

1



[I◀◀] [▶▶I]を使って再生したいフォルダを選ぶ

2



[▶]を押す

- 第2階層のフォルダを選ぶときは、再度[▶]を押します。

メモ

フォルダの選択中、第2階層から第1階層のフォルダへ戻るときは、停止中に[フォルダ]を押します。



パソコンから取り込んだファイル（Mフォルダのファイル）を再生する（つづき）

3

[▶]を押す

⇨ フォルダ内のファイルを再生します。

● 通常再生に戻すには、停止中に「フォルダ」を押してください。

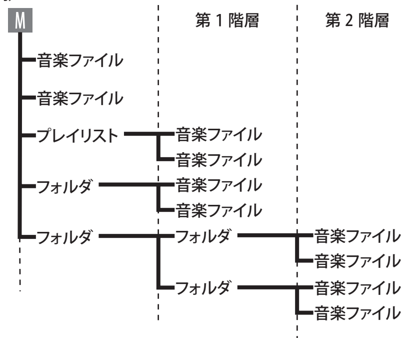
本機に転送した順番に再生します。



● 長い曲ファイル名はスクロール表示します。
● 音楽ファイルをリピート（1曲、フォルダ内全体、フォルダ内ランダム）再生できます。
☞97ページ
● Mフォルダ内のファイルにはインデックスをつけることはできません。
● 容量の大きいファイルはボタンを押してから動作するまで少し時間がかかることがあります。
● 音楽ファイルをヘッドホン再生すると、お好みの音質を選んだり低音を強調したりすることができます。☞96ページ

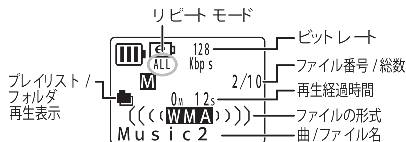
■フォルダの階層について

例）



- 第1階層→第2階層と進むときは[▶]を押す
- 第2階層→第1階層と戻るときは[フォルダ]を押す

■Mフォルダ再生中表示



■再生中操作について

音声再生と同じです。☞57ページ

■リピート設定について

音楽ファイルはリピート再生することができます。（1 曲リピート、全曲リピート、ランダムリピートから選ぶことができます。）

☞97ページ



- ファイルによっては登録されたアーティスト名や曲名などが表示されないことがあります。
- 停止中に[メニュー /停止]を押すごとに、画面表示が「現在日時」→「選択中の曲の再生総時間」→「アーティスト・曲名表示」と切り換わります。

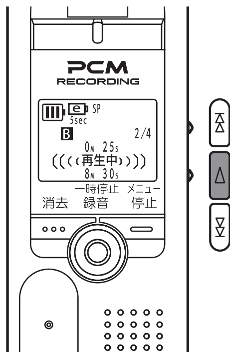


ファイルによっては、再生経過時間と実際の経過時間が異なる場合があります。

再生

5秒前リピートする

- 再生中のファイルの現在時点から5秒前に戻って、現在時点までの5秒間を繰り返し再生する機能です。短いフレーズなどを繰り返して再生することができます。





- 再生経過時間が5秒に満たないときに▶/リピートボタンを押した場合、ファイルの先頭位置に戻り、先頭からの5秒間を繰り返して再生します。
- 再生を停止すると5秒前リピート機能は解除します。
- ひとつのファイルが5秒に満たない場合は、そのファイル全体を繰り返して再生します。

再生中に、▶ /リピートを押す

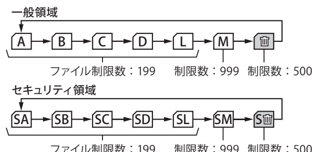
⇨ 押した時点から5秒戻って繰り返し再生します。

- 5秒前リピート設定中に、▶ /リピートを押すと、5秒前リピートを解除して通常再生に戻ります。

ごみ箱機能

■ごみ箱機能とは

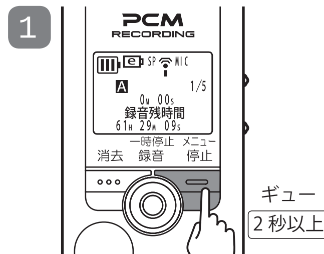
ごみ箱機能がONの時、本機で消去したファイルは、ごみ箱フォルダに移動します。
ごみ箱フォルダの中のファイルは元に戻すことができるので、間違って消去した場合でも安心です。





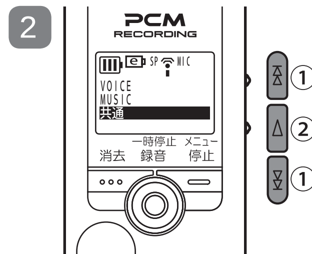
- ごみ箱フォルダに移動するのは、A～D、SA～SDおよび、L、SLフォルダのファイルです。
  Mフォルダのファイルはごみ箱フォルダへ移動ができません。（本機から完全に削除されます）
- フォーマットした場合は、ファイルはごみ箱フォルダに移動しません。ごみ箱にあるファイルもすべて消去されます。

■ごみ箱機能を「ON」に設定する



停止中、[メニュー/停止]を長押しする

『音声メニューです』

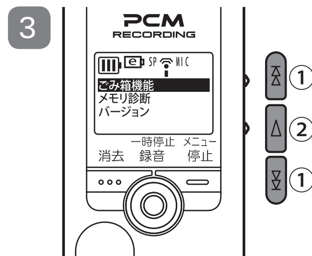


[|◀◀][▶▶|]を使って「共通」を選び、[▶]を押す

『共通メニューです』
『ビープ音設定モードです』

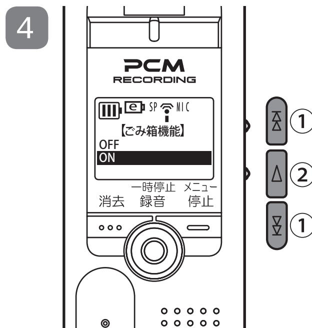


ごみ箱機能（つづき）



[|◀◀] [▶▶|]を使って「ごみ箱機能」を選び、[▶]を押す

🔊『ごみ箱機能設定モードです』



[|◀◀] [▶▶|]を押して「ON」を選び、[▶]を押す

■ごみ箱機能ON時のごみ箱内表示について

- ファイルがない時



- ファイルがある時

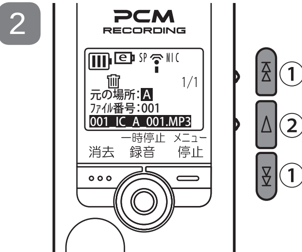


- ごみ箱に移動したファイル名は自動的に変更されます。
  ☞ 28 ページ
- ごみ箱フォルダ内のファイルは消去順に並んでいます。

■ごみ箱フォルダ内のファイルを再生する

1 [フォルダ]を押してごみ箱フォルダを選ぶ

2



[◀◀] [▶▶]を使ってファイルを選び、[▶]を押す

⇨ 選択したファイルが再生されます。

メモ

- ごみ箱フォルダ選択時に[録音]ボタンを押すとAフォルダへ移って録音を開始します。
- ごみ箱フォルダに移動できるファイル数は500ファイルです。501以上のファイルは移動できません。移動する場合はごみ箱フォルダ内のファイルを元のフォルダ内に戻す(☞68ページ)かごみ箱フォルダを空にしてください。
(☞70ページ)
- ごみ箱機能を「OFF」にしても、ごみ箱フォルダ内のファイルは消去されません。

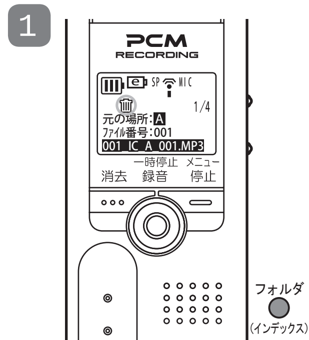


- ごみ箱機能設定が「ON」の時のみごみ箱フォルダ内のファイルを見ることができます。
- ごみ箱フォルダにファイルを移動すると元のフォルダに作成されたインデックスは自動的に消去されます。
- ごみ箱フォルダにファイルを移動しても元のフォルダの残容量表示は移動する前と変わりません。(ファイル数は減少する)
- Mフォルダのファイルは、ごみ箱機能設定が「ON」「OFF」にかかわらず、ごみ箱フォルダに移動しません。本機から完全に消去されます。
- ごみ箱フォルダにファイルが多くたまると、動作の低下をまねくおそれがあります。定期的にごみ箱を"空"にすることをおすすめします。

ごみ箱機能(つづき)

■ごみ箱フォルダ内のファイルを元に戻す

1

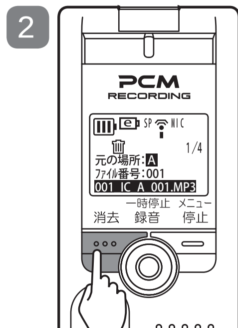


[フォルダ]を押してごみ箱フォルダを選ぶ

『ごみ箱フォルダ』

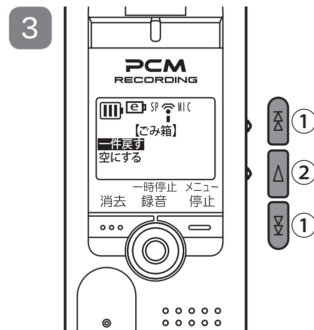
⇨ 上のような画面になります。

2



[消去]を押す

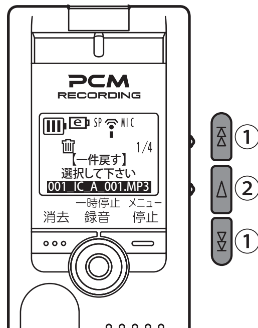
3



[|◀◀] [▶▶|]を使って「一件戻す」を選び[▶]を押す

『ごみ箱のファイルを一件戻します』

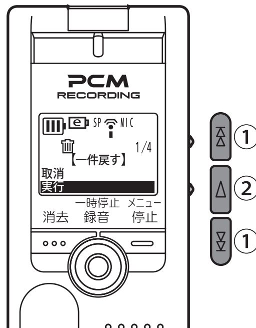
4



[|◀◀] [▶▶|]を使って ファイルを選び [▶]を押す

🔊『戻したいファイルを選択」してください』

5



[|◀◀] [▶▶|]を使って「実行」を選び [▶]を押す

⇨ ″ごみ箱からファイルを戻しています...″と表示された後、″A の末尾にファイルを戻しました″と表示されます(戻し先がAフォルダの場合)。「OK」を選び[▶]を押してください。

🔊『ファイルを戻しました』

メモ

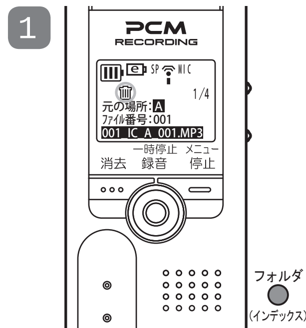
- ごみ箱内のファイルを元に戻した場合、ファイル名が変わり、元のフォルダの最後尾に復元されます。(ファイル名について ☞28ページ)
- 手順 5 で″＊が一杯です。ファイルを戻せません″と表示された場合は戻し先のフォルダの容量が一杯になっています。ファイルを消去して空き容量を増やしてください。(＊はフォルダ名が入ります。)



ごみ箱機能（つづき）

■ごみ箱内のファイルを空にする

1

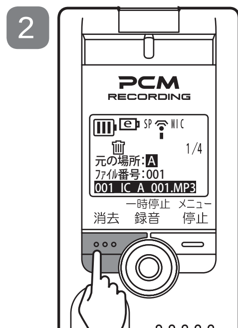


[フォルダ]を押してごみ箱フォルダを選ぶ

『ごみ箱フォルダ』

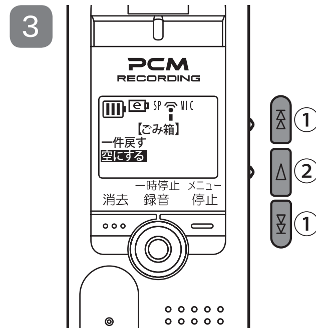
⇨ 上のような画面になります。

2



[消去]ボタンを押す

3

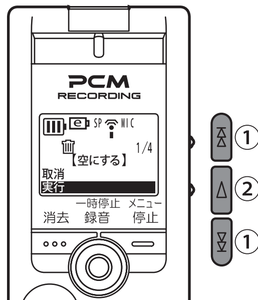


[◀◀] [▶▶]を使って「空にする」を選び[▶]を押す

『ごみ箱を空にします』


ごみ箱を空にすると消去した音声などは元に戻すことができません。空にする前に必要なデータはパソコンや外部機器などに保存してください。
☞114、150ページ

4



[I◀◀] [▶▶I]を使って
「実行」を選び
[▶]を押す

● "ごみ箱を空にしています..."と
表示された後、
"ごみ箱は空です"と表示されます。



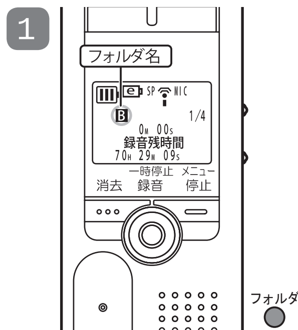
『ごみ箱を空にしました』

消去

1 件消去する(ファイル消去)

● ごみ箱機能が OFF の場合(☞ 65 ページ)、一度消去した音声などは元に戻すことができません。
● 消去前に必ずフォルダ内の録音内容を確認してください。(誤消去の防止)
操作前に電池の残量が充分にあることを確認してください。

1

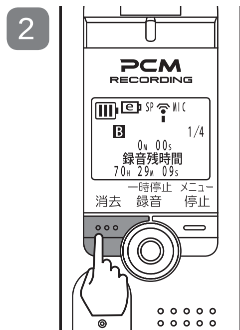


[フォルダ]を押して消去するファイルのあるフォルダを選ぶ

『○フォルダ』

⇨ 上のような画面になります。

2

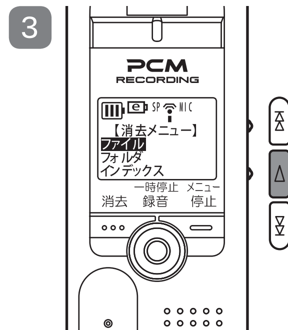


停止中、[消去]を押す

『ファイル消去モードです』

⇨ [消去メニュー]画面になります。

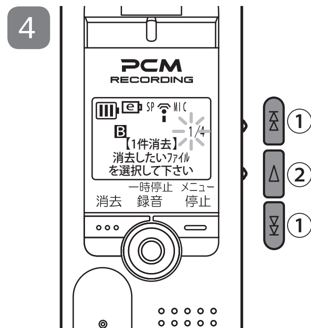
3



「ファイル」が選ばれていることを確認し、[▶]を押す

『消去したいファイルを選択してください』

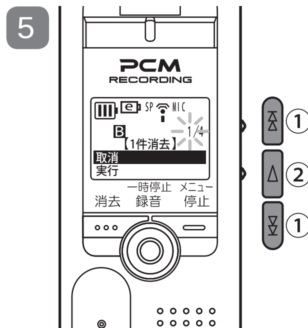
4



[|◀◀] [▶▶|]を使って消去するファイルを選び、[▶]を押す

⇨ 選択したファイル番号が点滅します。

5



[|◀◀] [▶▶|]を使って実行を選び、[▶]を押す

🔈『消去しました』

⇨ "消去実行中"の表示後、1件消去を実行します。

- 消去を中止するときは[メニュー/停止]を数回押します。
- ごみ箱設定「ON」時はファイルはごみ箱へ移動されます。
☞65ページ

- "🗑ごみ箱に移しました"と表示されますので「OK」を選び[▶]を押してください。



- 手順 5 で"ごみ箱が一杯です。空にしてください"と表示された場合は、ごみ箱フォルダのファイルが一杯になっています。ごみ箱フォルダを空にした後で、ファイルを消去してください。

🔈『ごみ箱が一杯です』



1件消去する（ファイル消去）（つづき）

■インデックスを消去する

手順 3 で「インデックス」を選んで手順 4 、 5 を行う

⇨ インデックスが消去されます



- インデックスを消去しても音声は消去されません。
- ファイル内の個別のインデックス消去はできません。ファイル内のインデックス全てを消去します。
- 以下のようなファイルは消去できません。
  - －MP3、WMA、WAV形式以外のファイル
  - －読み取り専用ファイル
  - －再生可能なフォルダに入っていないファイル
    ☞111ページ
- １件消去の場合、消去番号以降のファイル番号は繰り上がります。
  例）ファイル「1、2、3」のファイル番号2を消去→ファイル番号3が2に繰り上がり、ファイル「1、2」となる。



インデックス付のファイルを消去すると、ごみ箱機能が「ON」の場合でもインデックスは消去されてしまうため、元のフォルダに戻したとき、そのファイルのインデックス情報はなくなります。

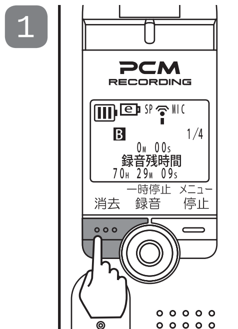
全件消去する（フォルダ消去）

- ごみ箱機能が OFF の場合（☞ 65 ページ）、一度消去した音声などは元に戻すことができません。
- 消去前に必ずフォルダ内の録音内容を確認してください。（誤消去の防止）

操作前に電池の残量が充分にあることを確認してください。

- フォルダ内の全ファイルを消去する操作です。（ファイル単位の消去☞ 72 ページ）

1

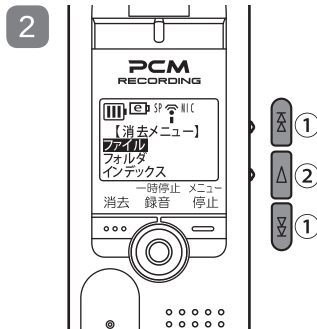


停止中、[消去]を押す

『ファイル消去モードです』

⇨ [消去メニュー]画面になります。

2

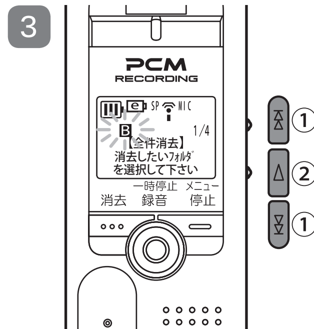


[|◀◀] [▶▶|]を押して「フォルダ」を選び、[▶]を押す

『フォルダ消去モードです』

『消去したいフォルダを選択してください』

3



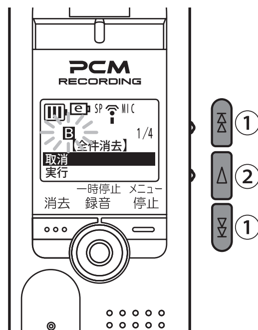
[|◀◀] [▶▶|]を使って全件消去したいフォルダを選び、[▶]を押す

⇨ 選択したフォルダが点滅します。

消去



4



[|◀◀] [▶▶|]を使って実行を選び、[▶]を押す

『消去しました』

⇨ "消去実行中"の表示後、全件消去を実行します。

- 消去を中止するときは[メニュー /停止]を数回押します。
- ごみ箱設定「ON」時はファイルはごみ箱へ移動されます。
☞65ページ

- "ごみ箱に移しました"と表示されますので「OK」を選び[▶]を押してください。



- 手順 4 で"ごみ箱が一杯です。空にしてください"と表示された場合は、ごみ箱フォルダのファイルが一杯になっています。ごみ箱を空にした後で、ファイルを消去してください。

『ごみ箱が一杯です』

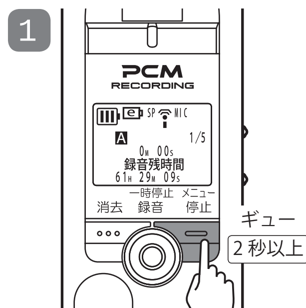


Mフォルダのサブフォルダは消去できません。パソコンに接続してパソコン上で消去してください。

内蔵メモリ内の全データを消去する（フォーマット）

- フォーマットを行うと、ごみ箱機能が ON の場合でも全てのファイルが完全に消去されます（メモリの初期化）。一度消去した音声などは元に戻すことができません。
- 消去前に必ず内蔵メモリ内の録音内容を確認してください。（誤消去の防止）
  全データの消去前に、必要なデータはパソコンや外部機器にバックアップしてください。☞ 114、150 ページ
- 全データを消去する前に電池の残量が充分にあることを確認してください。

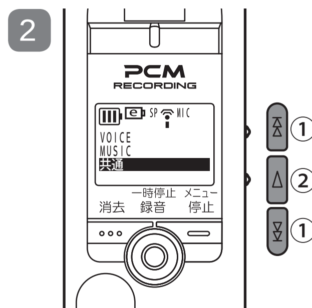
1



停止中、[メニュー /停止] を長押しする

『音声メニューです』

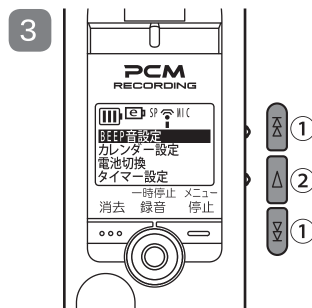
2



[|◀◀] [▶▶|]を使って「共通」を選び、[▶]を押す

『共通メニューです』
『ビープ音設定モードです』

3

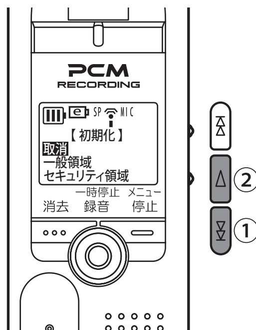


[|◀◀] [▶▶|]を使って「フォーマット」を選び、[▶]を押す

『メモリのフォーマットを行います』

⇨ [初期化]画面が表示されます。

4



[ ]を押して「初期化する領域」を選び、[ ]を押す

- 消去を中止するときは[取消]を選び、[ ]を押します。

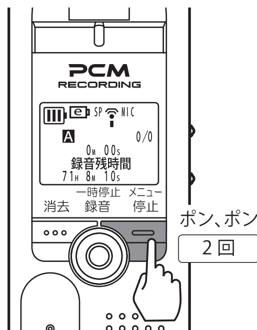
『フォーマットを取りやめました』

⇨ "フォーマット実行中"
→"フォーマット完了!"と表示し、全データを消去します。

『内蔵メモリをフォーマットしました』

- 「セキュリティ領域」のフォーマット後は、セキュリティ設定が解除され、暗証番号が工場出荷時の『0000』になります。

5



[メニュー /停止]を２回押す

⇨ 元の停止中状態に戻ります。

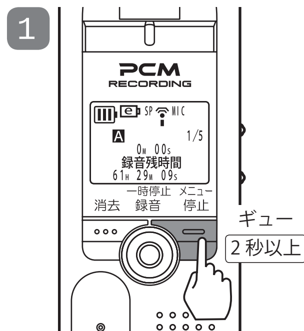


一般領域とセキュリティ領域の内蔵メモリを一度にフォーマットすることはできません。
別々にフォーマットしてください。

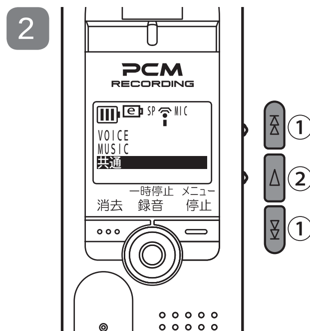
タイマー予約録音する

操作前に電池の残量が充分にあることを確認してください。

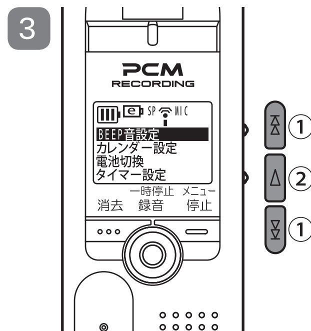
1



2



3



停止中、[メニュー /停止]を長押しする

『音声メニューです』

[ ] [ ]を使って「共通」を選び、[ ]を押す

『共通メニューです』
『ビープ音設定モードです』

[ ] [ ]を使って「タイマー設定」を選び、[ ]を押す

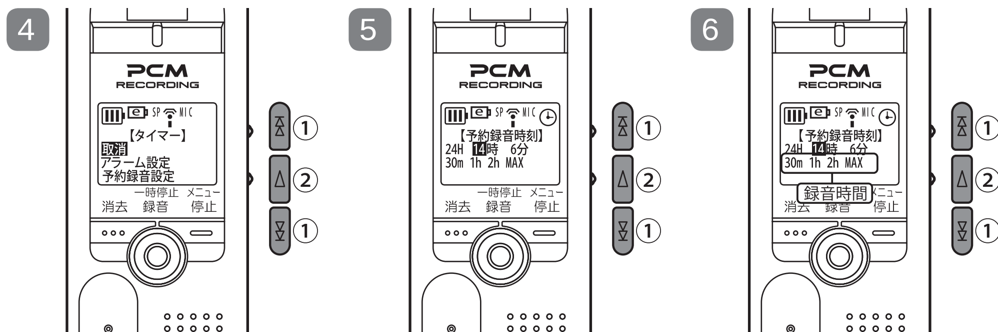
『タイマー設定モードです』

⇨ [タイマー]画面が表示されます。

タイマー



タイマー予約録音する(つづき)



[|◀◀] [▶▶|]を使って「予約録音設定」を選び、[▶]を押す

⇨ [予約録音時刻]画面が表示されます。

[|◀◀] [▶▶|]を使って予約録音開始時刻(時、分)を選び、[▶]を押す

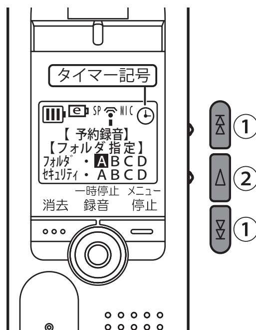
● 時設定の後、分を設定してください。

[|◀◀] [▶▶|]を使って録音時間を選び、[▶]を押す

● 30m(30分)、1h(1時間)、2h(2時間)、MAX(録音残時間がなくなるまで)から選んでください。
(PCMの最大録音時間は3時間です)

⇨ [録音フォルダ]設定画面が表示されます。

7



[|◀◀] [▶▶|]を使って録音するフォルダを選び、[▶]を押す

- L、Mフォルダは選択できません。(L、Mフォルダではタイマー予約録音できません。)

🔈『予約録音を設定しました』

⇨ 🕒〔タイマー記号〕が表示され、予約録音が設定されます。

8 [メニュー /停止]を2回押す

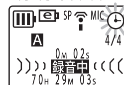
⇨ 元の状態に戻ります。

■予約録音を解除するには

手順 4 で「取消」を選び、[▶]を押す。

🔈『タイマー設定を取り消しました』





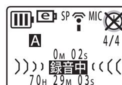
- 設定時刻になると自動的に録音が始まり、指定したフォルダ内に新しいファイルが作成されます。(予約録音中は 🕒 が点滅します。)
- 設定時刻に電源が切れている場合、自動的に電源が入って録音を始めます。
- タイマー予約録音を行うには、カレンダー(日時)を設定しておく必要があります。☞22ページ
- 設定操作中に設定をキャンセルするには[メニュー /停止]を押します。
- タイマー予約録音中でも、[一時停止/録音]を押すと録音一時停止になります。また[メニュー /停止]を押すと、タイマー予約録音は停止します。(電源を切った状態からタイマー予約録音が始まった場合、自動的にホールド設定となっていますので、[電源/ホールド]スイッチを戻してホールドを解除してから操作してください。)
- タイマー録音設定し、録音待機中でも通常の録音が可能です。
- 設定時刻は、現在の時刻から24時間以内のみ設定できます。
- タイマー予約録音は一度実行すると、設定は解除されます。

つづく

タイマー予約録音する（つづき）



右図のようにタイマー記号に×が表示されると、以下のような理由により録音されません。

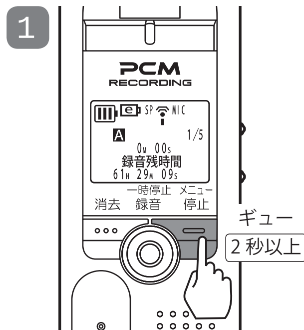


ー録音残時間がない
ー指定したフォルダ内のファイルが199あるとき
ー再生中
ー録音中
ーメニュー設定中

指定時刻にアラーム音を鳴らす

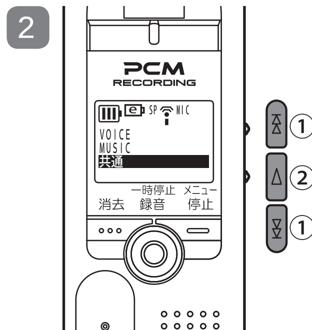
操作前に電池の残量が充分にあることを確認してください。

- アラーム（ピピピピッ）の代わりにお好みの音楽などを鳴らしたい場合は、パソコンに接続して ALARM フォルダ（☞ 112 ページ）に音楽ファイルを 1 つ入れてください。



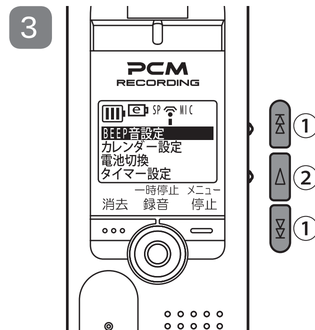
停止中、[メニュー /停止] を長押しする

『音声メニューです』



[◀◀] [▶▶]を使って「共通」を選び、[▶]を押す

『共通メニューです』
『ビープ音設定モードです』



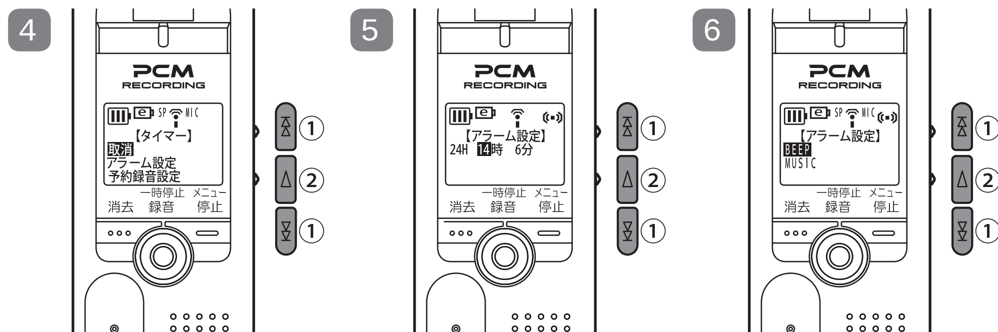
[◀◀] [▶▶]を使って「タイマー設定」を選び、[▶]を押す

『タイマー設定モードです』

⇨ [タイマー]画面が表示されます。



指定時刻にアラーム音を鳴らす（つづき）



[|◀◀]を押して「アラーム設定」を選び、[▶]を押す

⇨ [アラーム時刻]画面が表示されます。

[|◀◀] [▶▶|]を使ってアラーム時刻を選び、[▶]を押す

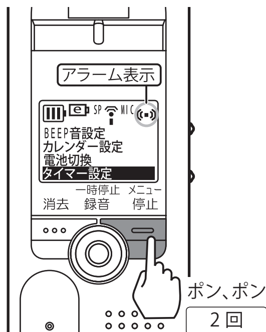
● 時設定の後、分を設定してください。

[|◀◀] [▶▶|]を使って鳴らす音を選び、[▶]を押す

BEEP：アラーム（ピピピピッ）
MUSIC：ALARMフォルダ内の音楽ファイル再生

🔈『アラームを設定しました』

7



[メニュー /停止]を 2 回押す

⇨ ((•)) が表示され、アラームが設定されます。

● アラーム動作中は((•))が点滅します。

■アラーム解除するには

手順 4 で「取消」を選び、[▶]を押す。



● 設定時刻になるとBEEPの場合はピピピピッ音が鳴り（約10秒）、MUSICの場合はALARMフォルダ内の音楽ファイルが再生されます（一曲終わるまで）。
● MUSIC設定する時は、本機が適切な音量になっていることを確認してください。“0”になっていると指定時刻になっても音が鳴りませんのでご注意ください。
● アラームの動作中は ((•)) が点滅します。
● アラーム音を止めるにはいずれかのボタンを押します。
● 設定時刻に電源が切れている場合、自動的に電源が入ってアラームが鳴ります。
● アラーム音を鳴らすには、カレンダー (日時）を設定しておく必要があります。☞22ページ
● 設定操作中に設定をキャンセルするには[メニュー /停止]を押します。
● 録音中は、アラームは動作しません。
● 設定時刻は、現在の時刻から24時間以内のみ設定できます。
● アラームは一度実行すると、設定は解除されます。

セキュリティ機能について

暗証番号を忘れてしまうとセキュリティ領域内のすべてのファイルを再生または使用できなくなるため、暗証番号は必ずメモに記録するなどして大切に保管してください。暗証番号の解読や解除など、当社では一切できません。

※本機のセキュリティ機能は再生を制限するものであり、ファイルの暗号化は施しておりません。また、セキュリティ領域（フォルダ）の録音や消去はセキュリティ設定に関わらず自由にできます。



本機の紛失、盗難、または詐取等により、個人情報が第三者に漏えいするおそれがあります。第三者に個人情報が漏えいしたために損害が生じた場合、当社はその責任を負いません。また、本機を使用されたこと、あるいは、使用できなかったことによって生じる、いかなる損害に関しても、当社はその責任を負いません。

■セキュリティ領域の録音、再生

● **録音：**

一般領域に録音する方法と同じです。☞34ページ

● **再生：**

セキュリティ設定時：

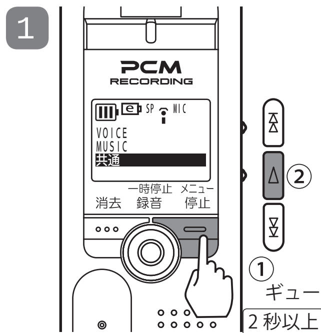
暗証番号を入力し、再生ロックを解除して再生します。再生ロック解除後の再生方法は、一般領域の再生方法と同じです。

セキュリティ解除時：

一般領域の再生方法と同じです。

☞54ページ

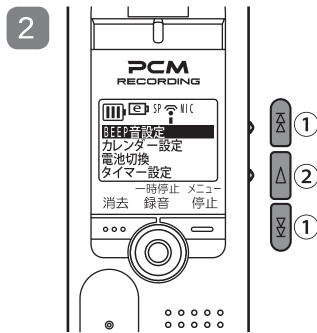
セキュリティの設定をする



停止中、[メニュー /停止]を長押しし、共通が選ばれていることを確認して[▶]を押す

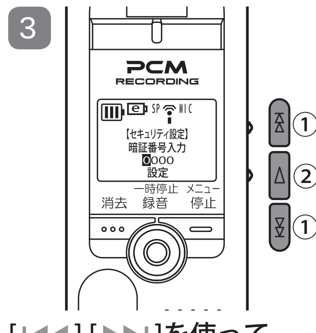
『共通メニューです』

『ビープ音設定モードです』



[|◀◀] [▶▶|]を使って[セキュリティ設定]を選び、[▶]を押す

『セキュリティ設定モードです』

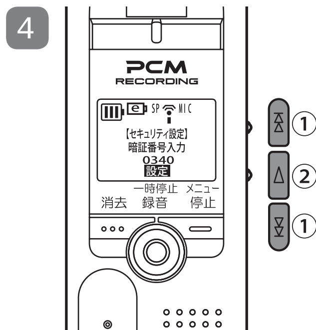


[|◀◀] [▶▶|]を使って1桁目の数字を選び、[▶]を押す

『4けたの暗証番号を登録してください』

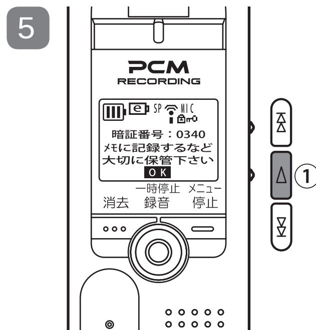
- [▶]を押すごとに入力する桁が送られます。
- 設定可能な暗証番号は4桁の数字で『0000 ～ 9999』です。
- 工場出荷時の暗証番号は『0000』です。

4



同様に2 ～ 4桁目の数字を入力し、[設定]が選ばれていることを確認して[▶]を押す

5



暗証番号をメモに記録するなどした後[▶]を押す


暗証番号は必ずメモなどに記録するなどして大切に保管してください。

『暗証番号を登録しました』

■セキュリティ設定の解除をする

手順 2 で「セキュリティ解除」を選んで、手順 3、4 で設定した暗証番号を入力する。

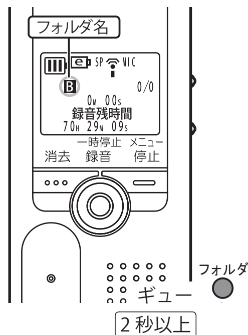
『セキュリティ解除モードです』

⇨ 解除されると、暗証番号は工場出荷時の「0000」に戻ります。

『セキュリティ設定を解除しました』

セキュリティ領域の選択と再生

■セキュリティ領域への切り替え方法



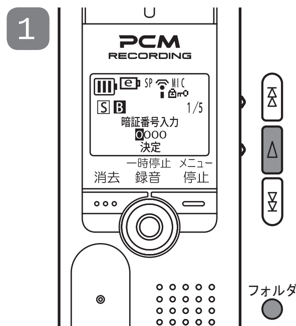
停止中、[フォルダ]を長押しする

■一般領域に戻るには

停止中、[フォルダ]を長押ししてください。

■セキュリティの再生ロックを解除して再生する

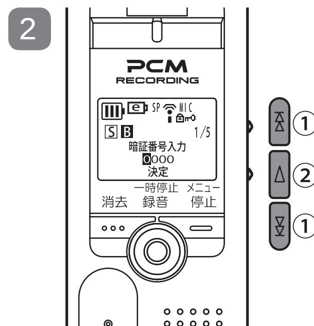
例：暗証番号 "0340" の場合



[フォルダ]を使って再生したいフォルダを選択し、[▶]を押す

⇨ 暗証番号入力画面が表示されます。

🔈 『暗証番号を入力してください。』

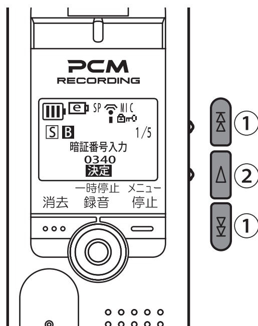


[⏮] [⏭]を使って1桁目の数字を選び、[▶]を押す

- [▶]を押すごとに入力する桁が送られます。
- 設定可能な暗証番号は 4 桁の数字で『0000 ～ 9999』です。
- 工場出荷時の暗証番号は『0000』です。

セキュリティ領域の選択と再生（つづき）

3



同様に2 ～ 4桁目の数字を入力し、[決定]が選ばれていることを確認して[▶]を押す

- 暗証番号“0340”と入力した場合は上図のようになります。

■セキュリティ設定とセキュリティ領域の動作について

セキュリティ設定		アイコン		セキュリティ領域		
				再生	録音	消去
使用しない（解除）		なし		○	○	○
使用する（設定）	再生ロック中			×	○	○
	再生ロック解除	なし		○	○	○

■暗証番号を忘れたとき

暗証番号が分からなくなった場合は、フォーマットをしてください。（☞77ページ）



フォーマットをすると、セキュリティ領域内の全データが消去されます。



フォーマット後はセキュリティ設定が解除され、暗証番号が工場出荷時の『0000』になります。

■再びセキュリティ領域の再生ロックをするときは

電源をいったん切って、再び電源を「入」にしてください。

設定操作（メニュー）のあらまし

● 設定項目（メニュー）は VOICE(音声)、MUSIC（音楽)、共通の 3 つの大項目に分類されています。

VOICE　音声録音に関する設定

[ファイル分割]　不要部分のカットや必要部分の抜き出し
[録音モード]　録音音質の設定
[マイクALC設定]　オートレベルコントロールのON/OFF
[マイク感度]　マイクの感度設定（マイクALC設定「ON」時のみ）
[VAS設定]　音声起動録音のON/OFF（マイクALC設定「ON」時のみ）
[ステレオワイド]　録音時ステレオ感の強調ON/OFF（MIC入力時のみ）
[外部録音]　外部入力端子に入力するソース選択
[自動無音分割]　録音中に無音状態が続くと自動的にファイルを分割する設定（LINE入力のみ）

MUSIC　音楽再生に関する設定

[サウンドEQ]　音質の設定（ヘッドホン再生時）
[BASS設定]　低音強調設定（ヘッドホン再生時）
[リピートモード]　リピートの設定

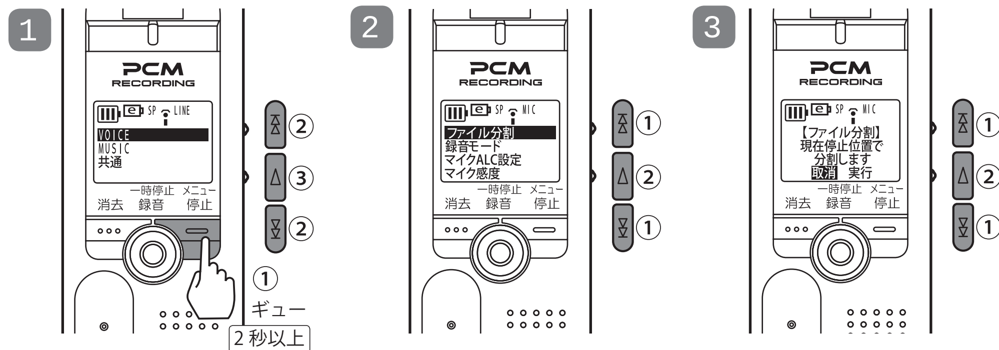
共通

[BEEP音設定]　音声ガイドとビープ（ピッ）音のON/OFF
[カレンダー設定]　カレンダー (時刻) 設定
[電池切換]　エネループかアルカリ電池かの選択
[タイマー設定]　アラーム、予約録音設定
[フォーマット]　全データ消去
[録音LED]　録音LEDのON/OFF
[バックライト]　画面のバックライトのON/OFF
[オートパワーオフ]　オートパワーオフ機能のON/OFF
[メニューモード]　メニューの表示方法設定
[コントラスト]　画面のコントラスト調整
[セキュリティ設定/解除]　セキュリティのON/OFF
[PC接続]　パソコンとの接続時の設定モードの選択
[ごみ箱機能]　ごみ箱設定のON/OFF
[メモリ診断]　メモリの状態を診断
[バージョン]　ソフトウェアのバージョン表示

つづく

設定操作（メニュー）のあらまし（つづき）

例：ファイル分割（VOICE）を設定する場合



停止中、[メニュー /停止]を長押しし、[I◀◀] [▶▶I]を使って大項目を選び、[▶]を押す

⇨ 各項目メニュー選択画面が表示されます。

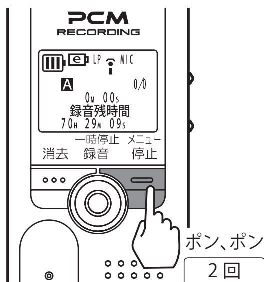
[I◀◀] [▶▶I]を使って設定メニューを選び、[▶]を押す

⇨ それぞれの設定画面へ

☞94ページ以降

[I◀◀] [▶▶I]を使って[実行]を選び [▶]を押す

4



[メニュー /停止]を２回押す

⇨ 元の停止中画面に戻ります。

● 設定中、[メニュー /停止]を何回か押して設定状態を抜けると設定がキャンセルされます。

VOICEメニュー項目

■ファイル分割

あらかじめ分割したい位置(時間)までファイルを再生し、停止させておきます。



- **取消：**
  VOICEメニュー選択画面に戻ります。
- **実行：**
  その停止位置でファイル分割を実行します。



- 録音時間の短いファイルやMUSICフォルダ内のファイルは、ファイル分割できません(MUSICフォルダを選択中はこのメニューは表示されません)。
- ファイル分割したファイルは元に戻せませんので、分割する前に必ずパソコンにバックアップを取ってください。
- インデックスをつけたファイルを分割すると、インデックスは消えます。

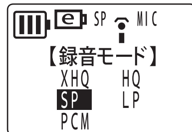
※分割した部分が前後のファイルで重複します。重複する時間と分割に必要なファイルの録音時間は下表の通りです。

録音モード	重複する時間	ファイル録音時間
PCM	約0.5秒	約1秒以上
XHQ	約2秒	約4秒以上
HQ	約4秒	約8秒以上
SP	約8秒	約16秒以上
LP	約16秒	約32秒以上

●ファイル分割するにはメモリに空き容量が必要です。


ファイル分割した際、指定した場所から前後にずれが生じる場合があります。

■録音モード



- PCM：PCMモード
- XHQ：最高音質モード
- HQ：高音質モード
- SP：標準音質モード
- LP：長時間モード

※「録音モード(音質)を変える」参照☞37ページ

■マイクALC設定



- **OFF**：
  マイクALCを使用しません。
- **ON**：
  マイクALCを使用します。

※「オートレベルコントロール（マイクALC）を設定する」参照☞39ページ

■マイク感度

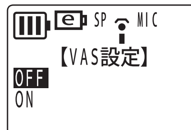


- **高**（高感度）
  会議など複数人（目安10人以下）の会話を録音する場合
- **中**（中感度）
  インタビューなど少人数（目安1 ～ 2人）の会話を近距離で録音する場合
- **低**（低感度）
  楽器のお稽古／練習などを録音する場合

※大音量の音楽などを録音する場合は、低（低感度）にしても音が割れたりすることがあります。

> マイクALC設定「ON」及び、マイク入力時のみ有効です。

■VAS設定

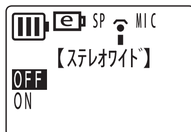


- **OFF**：
  VAS機能を使用しません。
- **ON**：
  VAS機能を使用します。

※「音声を感知して自動録音する（VAS）」
参照☞45ページ

> マイクALC設定「ON」及び、マイク入力時のみ有効です。

■ステレオワイド



録音時に、ステレオ感が強調されたより広がりのある音声で録音できます。

- **OFF**：ステレオワイド機能を使用しません。
- **ON**：ステレオワイド機能を使用します。

> マイク入力時のみ有効です。

つづく

■外部録音



- マイク入力：
  外部マイク入力を録音します。
- ライン入力：
  外部機器のラインアウトを入力して録音します。

※「外部機器から録音する」参照☞48ページ

■自動無音分割



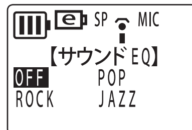
- OFF：
  自動無音分割機能を使用しません。
- ON：
  自動無音分割機能を使用します。

※「自動無音分割を設定する」参照☞51ページ

ライン入力時のみ有効です。

MUSICメニュー項目

■サウンドEQ



- OFF：
  サウンドEQ機能を使いません。
- POP：
  高音域をより強調します。
- ROCK：
  低音域と高音域をやや強調します。
- JAZZ：
  中音域を強調します。

MUSICフォルダ、LINEフォルダ内のファイル及び、ヘッドホン再生時のみ有効です。

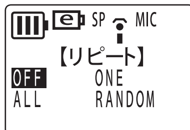
■BASS設定



- OFF：
  BASS機能を使いません。
- ON：
  低音域が強調された迫力のある音質で再生します。

MUSICフォルダ、LINEフォルダ内のファイル及び、ヘッドホン再生時のみ有効です。

■リピートモード

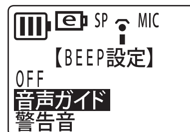


- **OFF：**
  リピート機能を使いません。
- **ONE：**
  選択中の1曲を繰り返し再生します。
- **ALL：**
  フォルダ内のすべての曲を繰り返し再生します。
  （サブフォルダ内は再生しない）
- **RANDOM：**
  フォルダ内のすべての曲を順不同に並べ換えて繰り返し再生します。
  （サブフォルダ内は再生しない）

> MUSICフォルダ、LINEフォルダ内のファイルのみ有効です。

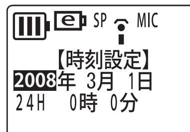
共通メニュー項目

■BEEP音設定



- **OFF：**
  音声ガイド・操作音・ビープ音（ピッ）を解除します。
- **音声ガイド：**
  音声ガイドとビープ音（ピッ）とを鳴らします。
- **警告音：**
  操作音・ビープ音（ピッ）を鳴らします。

■カレンダー設定



- YYYY年MM月DD日、（12/24時間表示）、HH時MM分
  ※「カレンダー（日時）を設定する」参照☞22ページ

■電池切換



- エネループ：
  エネループ使用時に選びます。
- アルカリ電池：
  アルカリ電池使用時に選びます。

■タイマー設定



- 取消：
  タイマーとアラームの設定を解除します。
- アラーム設定
  →HH時MM分：設定した時刻にビープ音またはALARMフォルダ内のファイルを再生します（フォルダ内にある1つのMP3かWMAファイルを再生）。ファイルがない場合は、ビープ音（約10秒）を鳴らします。
  ※「指定時刻にアラーム音を鳴らす」参照☞83ページ
- 予約録音設定
  →HH時MM分→録音する時間→録音フォルダ：設定した時刻に録音を開始し、設定した時間、選択したフォルダにファイルを保存します。
  ※「タイマー予約録音する」参照☞79ページ
  ※アラーム設定と予約録音設定を、同時に設定することはできません。いずれか1つのみ設定することができます。

■フォーマット



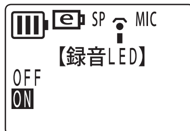
- 取消：
  フォーマットを取りやめます。
- 一般領域：
  一般領域の全データを消去します。
- セキュリティ領域：
  セキュリティ領域の全データを消去します。

※「内蔵メモリ中の全データを消去する（フォーマット）」参照☞77ページ

■録音LED

●ON：
録音時に録音LEDを点灯します。

●OFF：
録音時に録音LEDを点灯しません。



■バックライト

●ON：
バックライトを点灯します。

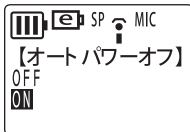
●OFF：
バックライトを点灯しません。



■オートパワーオフ

●ON：
オートパワーオフ機能が働きます。

●OFF：
オートパワーオフ機能は働きません。



※「電源を入れる/切る」参照☞20ページ

■メニューモード

●シンプル：
メニュー分類をなくし、基本的なメニュー項目のみを表示します。

●エキスパート：
メニュー分類別にすべてのメニュー項目を表示します。



つづく

設定する（つづき）

エキスパート選択時に設定できる（表示される）メニュー項目

VOICE メニュー項目	MUSIC メニュー項目	共通 メニュー項目
1. ファイル分割	1. サウンドEQ	1. BEEP音設定
2. 録音モード	2. BASS設定	2. カレンダー設定
3.マイクALC設定	3.リピートモード	3. 電池切換
4. マイク感度	ー	4. タイマー設定
5. VAS設定	ー	5. フォーマット
6. ステレオワイド	ー	6. 録音LED
7. 外部録音	ー	7. バックライト
8. 自動無音分割	ー	8. オートパワーオフ
ー	ー	9. メニューモード
ー	ー	10. コントラスト
ー	ー	11. セキュリティ設定
ー	ー	12. PC接続
ー	ー	13.ごみ箱機能
ー	ー	14.メモリ診断
ー	ー	15. バージョン

シンプル選択時に設定できる（表示される）メニュー項目

1. 録音モード	4. BEEP音設定	7. バージョン
2. サウンドEQ	5. カレンダー設定	8. メニューモード
3. BASS設定	6. 電池切換	

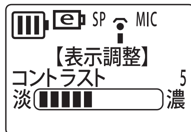


- Mフォルダ選択中は、「1. ファイル分割」は表示しません。
- マイクALC設定「OFF」時は、「4.マイク感度」と「5.VAS設定」は表示しません。

■コントラスト

液晶パネルのコントラストを調整できます。

淡(1)⇔濃(10)



■セキュリティ設定

暗証番号の設定ができます。

0000 ～ 9999



※「セキュリティの設定をする」参照☞87ページ

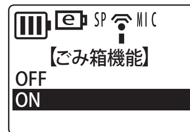
■PC接続

- **USB通常接続：**
  パソコンとの通常接続を行います。
- **WMA DRM10接続：**
  WMA DRM10(著作権保護付)に対応したパソコン接続を行います。
  ☞104、122、130ページ



■ごみ箱機能

- OFF
  ごみ箱フォルダを使用することができません。
- ON
  ごみ箱フォルダを使用することができます。



■メモリ診断

メモリの断片化を診断します。(メモリの最適化は行いません)

☞31ページ



■バージョン

ソフトウェアのバージョンを表示します。



- **工場出荷時の設定**
  液晶パネルの各表示イラストで、反転(白ヌキ)表示しています。

パソコンに接続する/取り外す

■動作環境

Macintoshなど、Windowsを搭載していないパソコンや、自作パソコンでは動作保証いたしません。

対応機種	Windows標準搭載パソコン
対応OS （日本語版）	Windows Vista Windows XP Windows Millennium Edition (Me) Windows 2000 Professional (SP3以降)
USB端子	本製品接続時に1つ必要
その他	スピーカーまたはヘッドホンが必要 サウンド再生機能搭載

● Windows Media Playerのバージョンについて

Windows Media Player 11	Windows Vista / Windows XP
Windows Media Player 10	Windows XP
Windows Media Player 9	Windows Millennium Edition (Me) Windows 2000 Professional (SP3以降)

※上記以外のWindows Media Playerでの動作保証はいたしません。

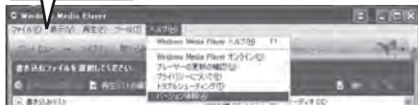
※上記は2008年2月現在での動作環境です。

- 以下の環境での動作保証はいたしません。
  - ーWindows 各OSからのアップグレード環境
  - ーWindows 95、Windows NT、Windows 98、Windows 98SE
  - ーWindows 各OSのデュアルブート環境
- 推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- ご利用の環境によっては、スタンバイ、サスペンド※などのモードが正常に動作しない場合があります。その場合は、本機使用時にはそれらのモードを使用しないでください。
  ※ サスペンド：
  CPU、LCD、HDDなどを停止し、電力消費量を極限まで減らしている状態。スリープと異なり、CPUは停止しているがROMへの電力供給はされている状態。
- Windows XP/2000をお使いの場合
  管理者権限（Administrators）のユーザにてご使用ください。
- Windows 2000以降で導入された「ダイナミックディスク」には動作保証していません。

■Windows Media Playerのバージョンを確認する

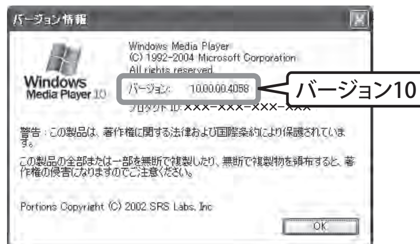
1 〔スタート〕メニューから〔すべてのプログラム〕-〔Windows Media Player〕を選択して、Windows Media playerを起動します。

2 メニューバーが表示されている場合は、〔ヘルプ〕-〔バージョン情報〕をクリックして〔バージョン情報〕ウィンドウを表示します。



- メニューバーが表示されていない場合は、手順1のWindows Media Playerを起動した状態で、キーボードの〔Ctrl〕キーを押しながら〔M〕を押すとメニューバーが表示されます。

3 〔バージョン〕の右側に表示されている数字を確認します。



- 一番左のケタ番号が、お使いのWindows Media Playerのバージョンです。

  9.××.××……⇒バージョン9
  10.××.××……⇒バージョン10
  11.××.××……⇒バージョン11

  ※6.××…、7.××…、8.××…と表記されているバージョンは動作保証致しません。
  http://www.microsoft.com/japan/windows/windowsmedia/download/default.aspxよりお使いのOSに対応した最新のWindows Media Playerを入手してください。

つづく

パソコンに接続する/取り外す（つづき）

■本機のPC接続について

本機では、メニュー設定で「USB通常接続」または「WMA DRM10 接続」のPC接続が設定できます。

☞101ページ

- **USB通常接続：**

  通常はこちらに設定してください。録音ファイルをパソコンに保存するときや、本機をUSBフラッシュメモリとして使用するときに設定します。

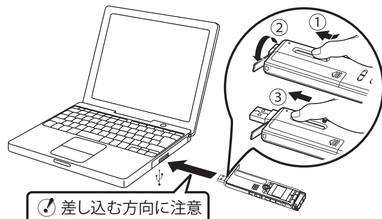
- **WMA DRM10 接続：**

  DRM10（著作権保護付）のWMAファイルを本機に転送する際には、PC接続を「WMA DRM10 接続」に設定してください。DRM10を除く音楽ファイルを転送するときは、通常設定であるUSB通常接続で転送してください。

WMA DRM10 接続するには、Windows XP SP2環境で、Windows Media Player 10、またはWindows Vista環境でWindows Media Player 11がインストールされていることが必要です。

■パソコンに接続する

1



USB保護カバーを開けてからパソコンのUSB端子と接続する

（セキュリティフォルダをパソコンで表示させるときは、本機の電源を入れたままPC接続してください。☞110ページ）

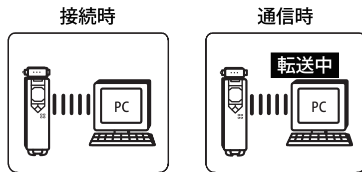
- USB端子スライドスイッチを押しこみながらスライドし（①）、USB端子を出して（③）、パソコンのUSB端子と接続してください。
- USB端子カバーは接続の邪魔にならないよう、回転させることができます（②）。
- 直接接続するのが無理な状況であれば、付属のUSB接続ケーブルをお使いください。

- 本機をPC接続したまま、パソコンを持ち運ばないでください。パソコンのUSB端子が破損するおそれがあります。
- 録音中にPC接続しないでください。

以降の説明は、USB通常接続設定の場合です。

※ OSのバージョンやパソコンのメーカーにより、お客さまのパソコン表示画面と本書掲載画面とが一致しない場合があります。（説明で使用する画面はWindows XP/Windows Media Player 10となります。）

■PC接続中の液晶パネルの表示

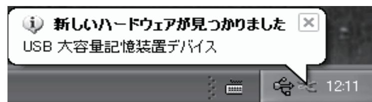


上の画面表示中は、本機のどのボタンやスイッチを押しても充電以外の操作はできません。

- バスパワー型USBハブ、またはUSB延長ケーブル（付属ケーブル以外）をご使用の場合は動作保証いたしません。必ず、付属の専用USB接続ケーブルのみで接続してください。
- 接続された本機を抜き差しする時は、USB端子付近を持って抜き差ししてください。

■初めて接続した場合

1



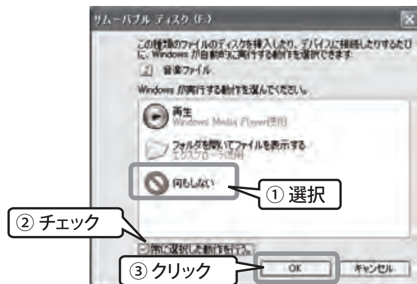
上図のようなメッセージが複数回表示されます。

- 消えるまでは本機を取り外さないでください。
- 初めて接続したときにパソコンに何も表示されない場合は、認識されているか確認してください。（☞140ページ）

つづく

パソコンに接続する/取り外す（つづき）

2

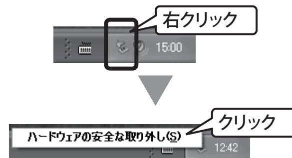


Windows XPまたは、Windows Vistaをお使いの場合のみ確認画面が表示されます。実行する動作を選んでください。

- この例では[何もしない][常に選択した動作を行う。]を選んでいます。

■パソコンから取り外す

1



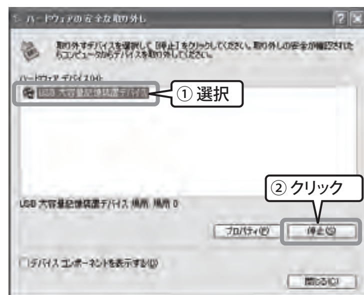
[タスクトレイ]のアイコンを右クリックし、[ハードウェアの安全な取り外し]をクリックする

- [タスクトレイ]アイコンが表示されない場合、Windowsのヘルプを参照ください。



WMA DRM10 接続のときは、本機の液晶パネルが通信時表示でないことを確認して、本機をUSB端子から取り外してください。

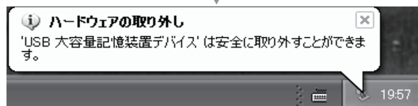
2



[USB大容量記憶装置デバイス]を選び、[停止]をクリックする

3





停止デバイスを確認し、[OK]をクリックする

4 本機をパソコンのUSB端子から取り外す

エネループを充電する

- エネループ(eneloop)を入れて充電します。

■充電する前に

本機にエネループが入っていることを必ず確認してください。

アルカリ電池等を入れたまま充電すると、液漏れ等、本機の故障の原因となります。

電池切換を「エネループ」に設定してください。

(☞98ページ)

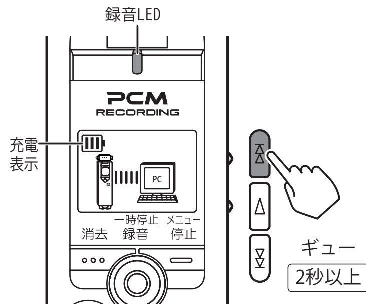
- 充電中は電池ぶたを必ず閉めてください。
- データ転送中でも充電はできますが、使用状況によっては充電完了後の再生時間が短くなることがあります。
- 充電は周囲の温度が5 ～ 35℃の環境でおこなってください。

■エネループを充電する

1 本機をパソコンのUSB端子又はUSB ACアダプター(別売)に接続する

「パソコンに接続する」☞104ページ

2



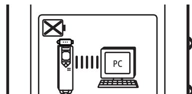
本機の液晶パネルがPC接続中の表示であることを確認して、[▶▶I]を長押しする

本機を手でしっかりと支えながら長押ししてください。

⇨録音LEDが点灯し、充電が始まります。

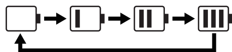
メモ 途中で充電を止めるときは、再び[▶▶I]を長押しします。

● 液晶パネルにPC接続中の表示が出ないときは、認識されているか確認してください。(☞140ページ)
● 以下の状態のときは充電しない場合があります。
1.パソコンが休止状態のモードになったとき
2.パソコンを再起動したとき
● 下図のように充電表示に×が表示されると、以下のような理由により充電できません。
ーエネループ以外の電池が入っている
ー本機に電池が入っていない
ー本機の温度が上がっている

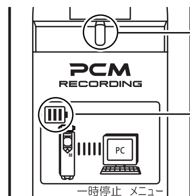


■充電表示について

充電中は液晶パネルの電池マークが以下のように切り換わります。



■充電が完了すると



• 充電時間は約90分です。

※充電時間は、使い切った電池を満充電する場合の目安です。電池の残量や周囲温度などによって充電時間は変化します。

● 充電中に電池があたたかくなることがありますが、異常ではありません。
● 満充電しても、電池の使用時間が著しく短くなったときが電池の寿命です。新しい単4形エネループをお買い求めください。

3 本機をパソコンから取り外す

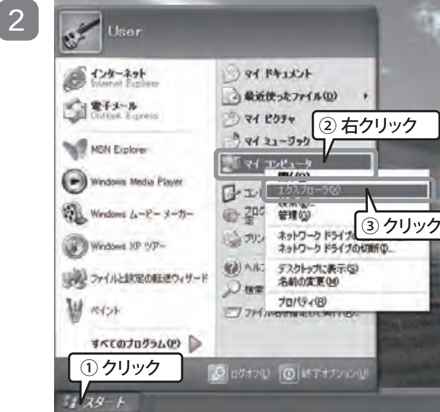
「パソコンから取り外す」☞106ページ

本機のフォルダについて

1 本機をパソコンのUSB端子に接続する

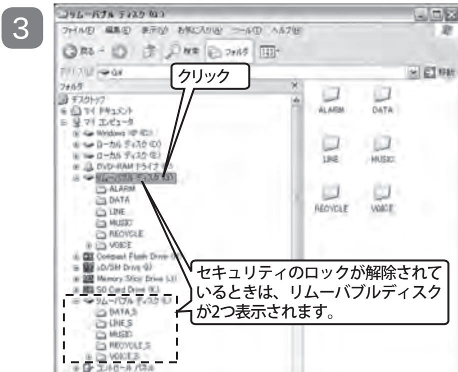
「パソコンに接続する」☞104ページ

2



エクスプローラを起動する

3



[リムーバブルディスク]をクリックすると本機のフォルダが表示されます。

- セキュリティ設定されており、セキュリティがロック状態のときはリムーバブルディスクが一つのみ表示されます。 ☞112ページ
- リムーバブルディスクが一つも表示されない場合 ☞140ページ

"Digital Voice Recorder to USB2"と表示された場合は、USB通常接続設定にして(☞101ページ)、パソコンと再接続してください。

■VOICE、VOICE_S

本機で録音した音声ファイル（MP3、WAV形式）とインデックス情報とを保存しているフォルダ。さらにA～Dのフォルダに分かれています。

- 録音されたファイルがA～Dのそれぞれのフォルダに入っています。
  "IC_A_XXX.MP3"といったファイル名になります。（Aフォルダの場合、XXX：ファイル番号）
  ※PCMモードで録音したファイルは"IC_A_XXX.WAV"といったファイル名になります。
- "IC_A_XXX.INX"はインデックス情報です。このファイルをパソコンで消去するとインデックス情報はなくなります。
- ファイルを違うフォルダ（たとえばAフォルダ内のファイルをBフォルダへ）に移動しないでください。再生できなくなります。
- パソコンでファイル名を変更するとVOICEおよびVOICE_Sに戻しても再生できなくなりますが、MUSICフォルダに転送すると再生できるようになります。
- WAV形式の音声ファイルは、本機で録音したファイルのみ再生できます。

メモ VOICE_Sは、セキュリティのロックが解除されているときに表示されるリムーバブルディスク内にあります。

■MUSIC

音楽ファイルなどパソコンから転送するファイルを保存するフォルダ。

- 再生できるファイルはMP3、WMA及び、本機で録音されたWAV形式のファイルです。ファイル名は問いません。
- ファイルを追加すると再生順が変わる場合があります。
- このフォルダの下の階層にお好みのフォルダを作成し、アルバムや歌手ごとにファイルを入れることができます。
  ☞139ページ

メモ
- 一般領域及びセキュリティ領域は、共に同じフォルダ名"MUSIC"で構成されています。選ばれている"MUSIC"フォルダの領域をご確認の上、ファイル転送、保存してください。☞134ページ
- セキュリティ領域のMUSICは、セキュリティのロックが解除されているときに表示されるリムーバブルディスク内にあります。

■DATA、DATA_S

ワードやエクセルなどのファイルを入れて本機をUSBフラッシュメモリ（リムーバブルディスク）として使うためのフォルダ。

- このフォルダに音声や曲ファイルを入れても本機では再生できません。

メモ DATA_Sは、セキュリティのロックが解除されているときに表示されるリムーバブルディスク内にあります。



本機のフォルダについて(つづき)

● **セキュリティ設定とパソコン上のリムーバブルディスク表示について**

セキュリティ設定		一般領域	セキュリティ領域
使用しない(解除)		○	○
使用する(設定)	再生ロック中	○	×
	再生ロック解除	○	※○

○:表示
×:表示しない

上図は、本機の電源が入った状態でパソコン接続した場合です。

※電源を切ると、再生ロック中に切り換わるため、本機の電源を切った状態でパソコン接続すると表示されません。本機の電源を入れてからパソコン接続してください。

■ALARM [一般領域のみ]

アラーム時に鳴らすMP3/WMA(著作権なし)ファイルを保存するフォルダ。

- 再生できるのは 1 ファイルのみです。
- このフォルダにファイルがない場合は、設定にかかわらずアラーム時にはBEEP音(ピピピピッ)が鳴ります。

■LINE.LINE_S

外部機器から録音したファイルを保存するフォルダ。

- "IC_L_XXX.MP3"といったファイル名になります。(XXX:ファイル番号)
- パソコンでファイル名を変更するとLINEに戻しても再生できなくなりますが、MUSICフォルダに転送すると再生できるようになります。
- このフォルダに音声や曲ファイルを入れても、本機では再生できません。



- 内蔵メモリのフォーマットは必ず本機側で行ってください。パソコンでフォーマットを行うと、録音が正常に行われなくなることがあります。
- パソコンでフォーマットしてしまった場合は、再度本機でフォーマットしてください。
☞77ページ

■RECYCLE、RECYCLE_S

A～DおよびLフォルダ内のファイルを一時的に保管するフォルダ。

- 次のようなファイル名になります。
  一般領域の場合　　　　　＊＊＊_IC_○_XXX.MP3
  セキュリティ領域の場合　＊＊＊_SC_○_XXX.MP3
  ＊＊＊ ：ごみ箱フォルダ内のファイル番号
  ○ ：元のフォルダ
  XXX ：元のファイル番号
- ごみ箱フォルダ内のファイルを元のフォルダに戻した場合ファイル名が変わります。（元のフォルダ内の最後尾に復元されます）

例：001_IC_A_001.MP3
元のファイル番号



IC_A_010.MP3
戻った後のファイル番号

※ファイルを戻した A フォルダにすでに 9 個のファイルがあり、戻したファイルが 10 個目となった場合

- このフォルダには録音できません。
- このフォルダ内のファイルは再生することができます。

録音した音声ファイルを保存する

※OSのバージョンやパソコンのメーカーにより、お客さまのパソコン表示画面と本書掲載画面とが一致しない場合があります。説明で使用する画面はWindows XP/Windows Media Player 10となりますので、その他のバージョンのWindows Media Playerをお使いの場合は、当社ホームページの「基本操作ガイド」をご覧ください。

http://www.sanyo-audio.com/support/icr/guide.html

- WMPのバージョンを確認するには（☞103ページ）

1 本機をパソコンのUSB端子に接続する

「パソコンに接続する」☞104ページ

2

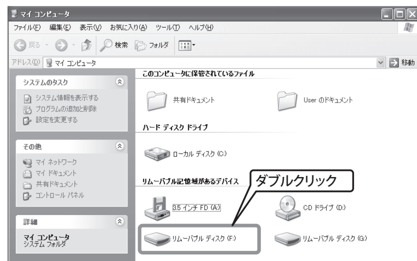


マイ コンピュータを開く

[スタート]メニューから[マイ コンピュータ]をクリックします。または、デスクトップ上の[マイ コンピュータ]をダブルクリックします。

（画面例はWindows XPです）

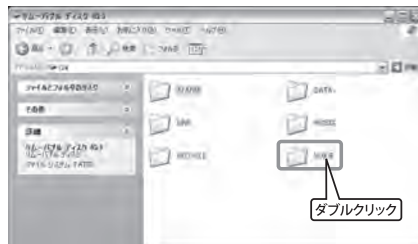
3



リムーバブルディスクを開く

［マイ コンピュータ］内の［リムーバブルディスク］をダブルクリックします。

4



VOICEフォルダを開く

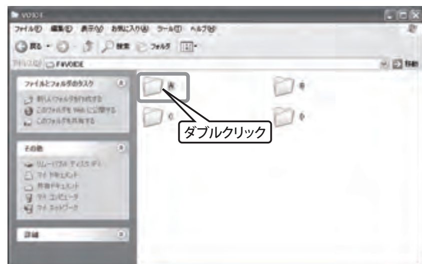
［リムーバブルディスク］内のVOICEをダブルクリックします。

- 外部機器から録音した音声ファイルをパソコンに保存する場合は、「LINE」フォルダを選択してください。

つづく

録音した音声ファイルを保存する(つづき)

5

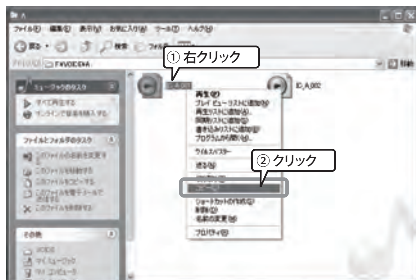


保存したいファイルの入っているフォルダを開く(A～D)

[VOICE]内のいずれかのフォルダをダブルクリックします。

- 上図はAフォルダを選ぶ例です。

6



保存したいファイルにマウスポインタを合わせて右クリックし、メニューから[コピー]をクリックする

- パソコンに保存するとともにそのファイルを本機から消去する場合は[切り取り]を選んでください。

7



保存先のフォルダを開く

- この例では[マイドキュメント]に保存しています。

8



[編集]をクリックし、メニューから[貼り付け]をクリックする

⇨同名ファイルが作成されたら保存完了です。

9 本機をパソコンから取り外す

「パソコンから取り外す」☞106ページ

パソコンにコピーしたファイルが正常に再生することを確認後、本機のファイルを消去してください。

音声ファイルをCD-R/RWにコピーする

本機で録音した音声ファイルをWindows Media PlayerでCD-R/RWにコピーすることができます。

- 本機の内蔵メモリ内に保存されたファイルを直接CD-R/RWにコピーすると、処理上の負担が増加するなど、予期せぬエラーの原因となります。ファイルをCD-R/RWにコピーするときは、いったんパソコンに保存してからこの作業をおこなってください。☞114ページ
- CD-R/RWにコピー中は、他の操作をしないでください。

以降の手順は、本機で録音した音声ファイルを、[マイドキュメント]の[マイミュージック]に保存した状態で説明しています。

※OSのバージョンやパソコンのメーカーにより、お客さまのパソコン表示画面と本書掲載画面とが一致しない場合があります。説明で使用する画面はWindows XP/Windows Media Player 10となりますので、
その他のバージョンのWindows Media Playerをお使いの場合は、当社ホームページの「基本操作ガイド」をご覧ください。

http://www.sanyo-audio.com/support/icr/guide.html

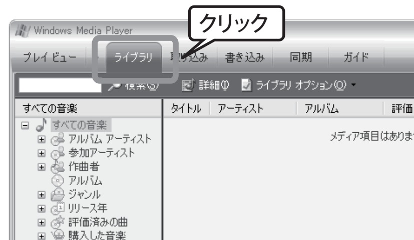
- WMPのバージョンを確認するには(☞103ページ)

1 Windows Media Playerを起動する

［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Windows Media Player］を選択して、Windows Media Playerを起動します。

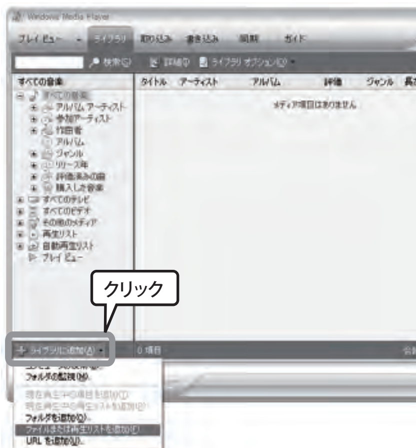
2 空のCD-R/RWをパソコンのCD-R/RWドライブに挿入する

3



[ライブラリ]をクリックする

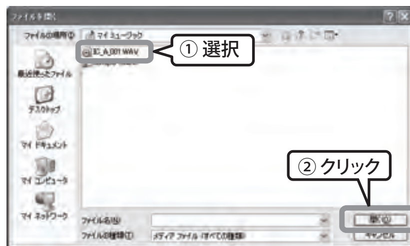
4



[ライブラリに追加]をクリックする

画面左下にある[ライブラリに追加]ボタンをクリックします。

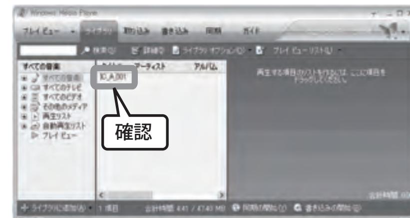
5



追加したい音声ファイルを選ぶ

ライブラリに追加したい音声ファイルを選択して、[開く]をクリックします。

6



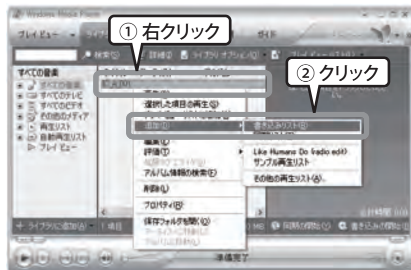
選択した音声ファイルを確認する

選択した音声ファイルがライブラリに表示されるので、内容を確認します。



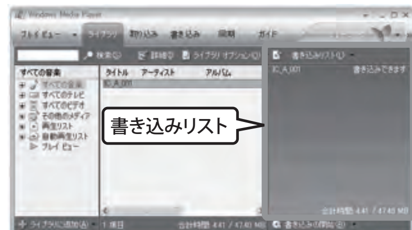
音声ファイルをCD-R/RWにコピーする(つづき)

7



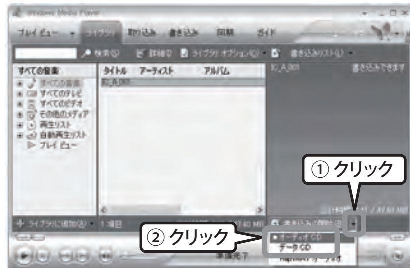
書き込みリストを作成する

追加した音声ファイルにマウスポインタを合わせて右クリックし、メニューから[追加]-[書き込みリスト]をクリックします。



書き込みリストが作成されます。

8



CD形式を選択する

画面右下にある[書き込み開始]ボタン横の▼をクリックし、[オーディオCD]または[データCD]をクリックします。



- オーディオCD：CD-DA形式に変換してCD-R/RWにコピーします。CD-R対応のラジカセやコンポなどで再生できます。
- データCD：本機で録音した形式(MP3、PCM)のままCD-R/RWにコピーします。パソコン上で再生できますが、一般のオーディオ機器では再生できません。

オーディオCDを選択してCD-R/RWにコピーする場合、CDの容量によって最大で以下の記録時間となります。（あくまで理論値であり、保証するものではありません）
- 650MB…74分
- 700MB…80分

コピーしたい音声ファイルが上記時間以上のときは、あらかじめ本機でファイル分割してください。
☞94ページ

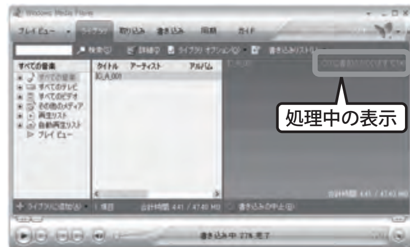
9



書き込みを開始する

画面右下にある[書き込み開始]ボタンをクリックします。

10





追加した音声ファイルがすべて[完了]と表示されたら、コピー終了です。

本機で音楽を聞くには

本機で音楽を楽しむには、まずパソコンに音楽ファイルを記録し、それを本機に転送する必要があります。

音楽ファイルを記録するには

■音楽CDから作成する
■インターネット上の音楽配信サービスを利用する
の2通りがあります。

本機で再生できる形式は、次の2形式の音楽ファイルです。

■WMA形式の音楽ファイル
■MP3形式の音楽ファイル
※AAC形式など、本機に対応していない記録形式では再生できません。

- お客様が転送したMP3・WMA形式ファイルは個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で複製や配布、インターネットへの掲載などに、使用することは固く禁じられています。
- 本機およびパソコンの不具合により、転送やダウンロードができなかった場合、または音楽ファイルが破損、消去された場合、ファイル内容の補償はいたしません。

音楽 CD を記録する場合

Windows Media Player を起動し、音楽 CD の曲をライブラリへコピーします。
ライブラリへのコピーが終わった段階で、音楽 CD の内容が WMA 形式の音楽ファイルへと変換されます。
「音楽ファイルを作成する(CD リッピング)」
(☞123 ページ)

↓

エクスプローラを使って音楽ファイルを転送します。
「エクスプローラで音楽ファイルを転送する」
(☞126 ページ)

音楽配信サービスを利用する場合

WMA 形式に対応している音楽配信ホームページから音楽ファイルを購入します。(☞130 ページ)

↓

購入した音楽ファイルを Windows Media Player のライブラリへ追加します。
「音楽ファイルをライブラリに追加するには」
(☞131 ページ)

↓

Windows Media Player を使って音楽ファイルを転送します。
「Windows Media Player で音楽ファイルを転送する」
(☞134 ページ)

音楽ファイルを作成する（CDリッピング）

音楽CDから本機で再生可能な音楽ファイル（WMAまたはMP3）を作成する操作です。

CDから音楽ファイルを取り込み中は、他の操作をしないでください。ノイズ発生の原因となります。

ここでは、Microsoft Windows Media Playerを使って音楽CDの曲をWMA（またはMP3）形式に変換してパソコンに取り込む方法について説明します。
操作の方法について詳しくは、Windows Media Playerのオンラインヘルプをご覧ください。

※OSのバージョンやパソコンのメーカーにより、お客さまのパソコン表示画面と本書掲載画面とが一致しない場合があります。説明で使用する画面はWindows XP/Windows Media Player 10となりますので、
その他のバージョンのWindows Media Playerをお使いの場合は、当社ホームページの「基本操作ガイド」をご覧ください。

http://www.sanyo-audio.com/support/icr/guide.html

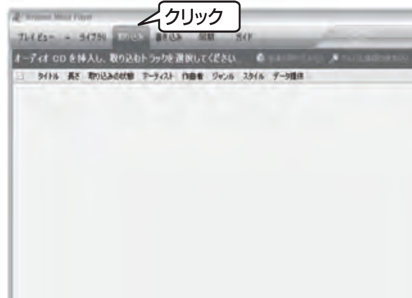
- WMPのバージョンを確認するには（☞103ページ）

●Windows Media Playerの入手方法の詳細はMicrosoft社のホームページをご覧ください。
http://www.microsoft.com/japan/windows/windowsmedia/download/default.aspx

1 Windows Media Playerを起動する

［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Windows Media Player］を選択して、Windows Media Playerを起動します。

2



［取り込み］をクリックする

パソコン

つづく

音楽ファイルを作成する（CDリッピング）（つづき）

3 音楽CDをパソコンのCD-R/RWドライブに挿入する

- お使いのパソコンがインターネット接続環境にある場合、自動的にインターネットから音楽CDの曲情報を入手して表示します。表示されない場合は[アルバム情報の検索]をクリックしてください。
  インターネットに接続していない場合や、CDの種類によっては曲情報を表示しない場合もあります。

4

オプションを開く

Windows Media Playerの画面右上にある ▼ ボタンをクリックし、表示されたメニューから[ツール]−[オプション]をクリックし、オプション画面を表示させます。

5

[音楽の取り込み]タブより、[取り込んだ音楽を保護する]のチェックを外す

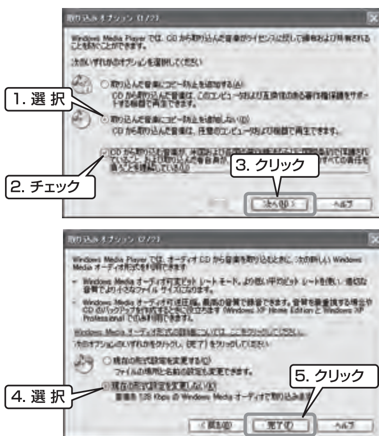
チェックを外した後、[OK]をクリックしてください。

6

取り込みを開始する

パソコンに取り込みたい曲をチェックして、[音楽の取り込み]をクリックします。

※下記のような画面を表示した場合は、画面通りチェックをつけて[完了]をクリックしてください。



7



選択した曲がすべて[ライブラリに取り込み済み]と表示されたら、CDの内容がWMA（またはMP3）形式に変換されてパソコンに取り込まれます。

エクスプローラで音楽ファイルを転送する

- 音楽配信サービスで購入したWMA形式ファイルを本機に転送する場合は、Windows Media Playerで転送してください。☞134ページ
- 転送方法の詳細は、http://www.sanyo-audio.com/support/icr/guide.htmlをご覧ください。
- MP3・WMA形式のファイルでも、本機で正常に再生できない場合があります。
- 本機で再生・転送できるフォルダは、MUSICフォルダの下2階層までです。

ここでは、Windowsのエクスプローラを使用してWMA（またはMP3）形式の音楽ファイルを本機に転送する方法について説明します。

※OSのバージョンやパソコンのメーカーにより、お客さまのパソコン表示画面と本書掲載画面とが一致しない場合があります。説明で使用する画面はWindows XP/Windows Media Player 10となりますので、その他のバージョンのWindows Media Playerをお使いの場合は、当社ホームページの「基本操作ガイド」をご覧ください。
http://www.sanyo-audio.com/support/icr/guide.html

- WMPのバージョンを確認するには（☞103ページ）

1 本機をパソコンのUSB端子に接続する

「パソコンに接続する」☞104ページ

2

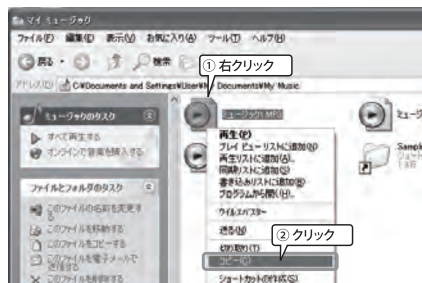


マイミュージックを開く

Windows Media Playerを使用して取り込んだ音楽ファイルは、初期設定では［マイ ドキュメント］内の［マイ ミュージック］に保存されています。

- Windows Media Playerで取り込んだ音楽ファイルの保存先は、Windows Media Playerを起動して、［ツール］–［オプション］–［音楽の取り込み］–［取り込んだ音楽を保存する場所］で確認できます。

3



転送したい音楽ファイルにマウスポインタを合わせて右クリックし、メニューから[コピー]をクリックする

- 本機に転送するとともにそのファイルをパソコンから消去する場合は[切り取り]を選んでください。

4



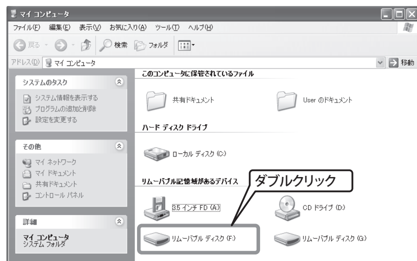
マイ コンピュータを開く

[スタート]メニューから[マイ コンピュータ]をクリックします。または、デスクトップ上の[マイ コンピュータ]をダブルクリックします。

つづく

エクスプローラで音楽ファイルを転送する（つづき）

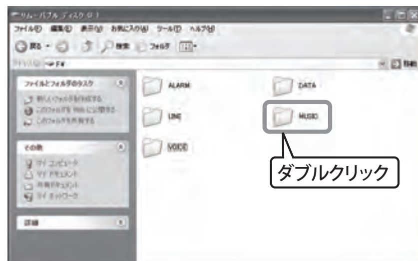
5



リムーバブルディスクを開く

［マイ コンピュータ］内の［リムーバブルディスク］をダブルクリックします。

6

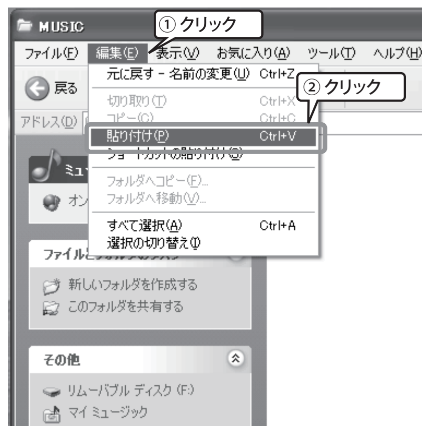


MUSICフォルダを開く

［リムーバブルディスク］内のMUSICフォルダをダブルクリックします。

- 再生したい音楽ファイルは、必ずリムーバブルディスクのMUSICフォルダ内に入れてください。VOICEまたはLINEフォルダに入れても再生できません。
- 一般領域及びセキュリティ領域は、共に同じフォルダ名”MUSIC"で構成されています。選ばれている"MUSIC"フォルダの領域をご確認の上、ファイルを転送してください。

7



音楽ファイルを転送する

[編集]をクリックして表示されるメニューから、[貼り付け]を選択してクリックします。

コピーが開始され、同じ名前の音楽ファイルが作成されたら転送完了です。

転送中は絶対に本機をパソコンから取り外さないでください。

＜コピー中の表示＞



転送するフォルダ・ファイルに関しては、「本機のフォルダについて」を参照してください。
☞111ページ

8 本機をパソコンから取り外す

「パソコンから取り外す」☞106ページ

音楽配信サービスを利用する

本機では、インターネット上の音楽配信サービスで購入したWMA形式の音楽ファイルを本機に転送して再生することができます。

> WMA形式やMP3形式以外（AAC形式やその他の形式）の音楽ファイルは、本機で再生できません。
> WMA形式の音楽ファイルを配信しているホームページについては、http://www.microsoft.com/japan/windows/windowsmedia/musicstores/をご覧ください。

音楽配信サービスで購入したWMAファイルは、違法なコピーや配布を防止するため著作権保護されています。本機が対応している著作権保護方式（DRM）は、PDDRMとDRM10ですが、お使いのパソコン環境によって使用できる方式が異なります。

OS	本機のPC接続設定	著作権保護方式
Windows XP Windows Millennium Edition (Me) Windows 2000 Professional (SP3以降)	USB通常接続	PDDRM
Windows Vista Windows XP	WMA DRM10接続	PDDRM DRM10

PDDRM：

従来の音楽配信サービスで利用されている著作権保護方式。この著作権保護方式で保護されたWMAファイルを本機で再生するには、本機のPC接続を『USB通常接続』に設定してパソコンに接続し、WMAファイルの転送を行います。

DRM10：

最新の著作権保護方式。この著作権保護方式で保護されたWMAファイルを本機で再生するには、本機のPC接続を『WMA DRM10 接続』に設定してパソコンに接続し、WMAファイルの転送を行います。

- 利用方法やファイルの著作権保護方式については、各音楽配信サービス会社でご確認ください。

> - 著作権保護方式（DRM）が施されているファイルは、不正にコピーしたり配布したりできないように制限されています。
> - 音楽配信サービスで購入されたDRM付き音楽ファイルは本機などのポータブルデバイスへの転送に制限がある場合があります。

音楽ファイルをライブラリに追加するには

音楽配信サービスなどで入手した音楽ファイルを本機に転送するには、まずライブラリに追加することが必要です。(音楽配信サービスによっては、ライブラリに自動的に追加される場合がありますので、その場合は以下の作業をする必要はありません。P.134からの手順へお進みください。)

ライブラリに追加できるのは、WMAファイル、MP3ファイルです。

※OSのバージョンやパソコンのメーカーにより、お客さまのパソコン表示画面と本書掲載画面とが一致しない場合があります。説明で使用する画面はWindows XP/Windows Media Player 10となりますので、その他のバージョンのWindows Media Playerをお使いの場合は、当社ホームページの「基本操作ガイド」をご覧ください。

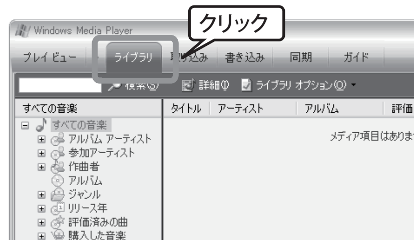
http://www.sanyo-audio.com/support/icr/guide.html

- WMPのバージョンを確認するには(☞103ページ)

1 Windows Media Playerを起動する

［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Windows Media Player］を選択して、Windows Media Playerを起動します。

2



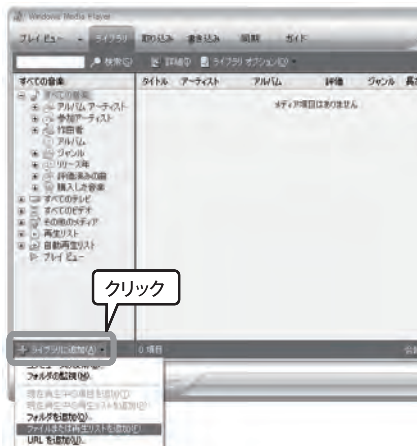
［ライブラリ］をクリックする

パソコン

つづく

音楽ファイルをライブラリに追加するには（つづき）

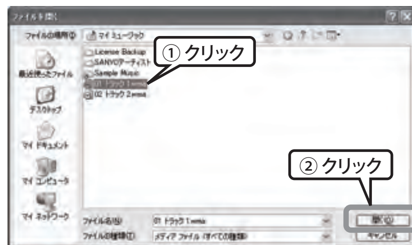
3



[ライブラリに追加]をクリックする

画面左下にある[ライブラリに追加]ボタンをクリックします。

4



追加したい音楽ファイルを選ぶ

ライブラリに追加したい音楽ファイルを選択して、[開く]をクリックします。

5



選択した音楽を確認する

選択した音楽ファイルがライブラリに表示されるので、内容を確認します。
これで、音楽ファイルがライブラリに追加されました。
ライブラリの内容を本機に転送するには、次ページ「Windows Media Playerで音楽ファイルを転送する」をご覧ください。

Windows Media Playerで音楽ファイルを転送する

※OSのバージョンやパソコンのメーカーにより、お客さまのパソコン表示画面と本書掲載画面とが一致しない場合があります。
（説明で使用する画面はWindows XPとなります。）

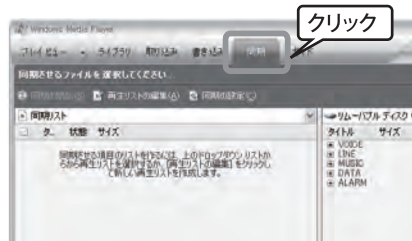
※その他のバージョンのWindows Media Playerをお使いの場合は、当社ホームページの「基本操作ガイド」をご覧ください。

http://www.sanyo-audio.com/support/icr/guide.html

1 Windows Media Playerを起動する

［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Windows Media Player］を選択して、Windows Media Playerを起動します。

2



[同期]をクリックする

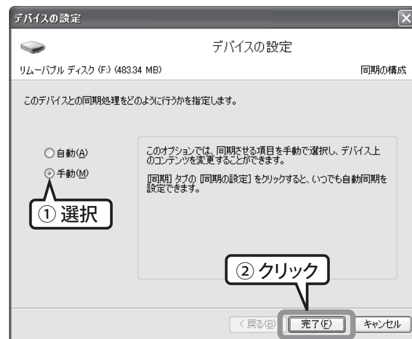
上図のように、同期画面が表示されます。

3 本機のPC接続を設定する

DRM10（著作権保護）付きのWMAファイルを転送する場合、本機のPC接続を「WMA DRM10 接続」に設定してください。それ以外の音楽ファイル（MP3、DRMなしのWMA、PDDRM方式のWMA）を転送する場合は「USB通常接続」に設定してください。

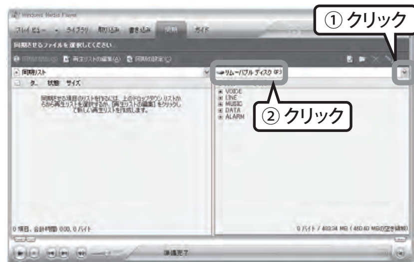
☞101ページ

4 本機をパソコンに接続する



ここで、上図のような図が表示された場合は、[手動]を選択し、[完了]をクリックします。

5

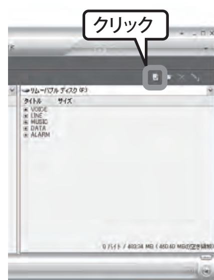


同期するデバイスを選択する

上図のように右側ウィンドウの[ ]をクリックし、表示されるプルダウンメニュー内から同期するデバイスを選択します。デバイスの名前は本機のPC接続によって以下のように変わります。

- USB通常接続の場合–––[リムーバブルディスク]
- WMA DRM10 接続の場合–––[Digital Voice Recorder]

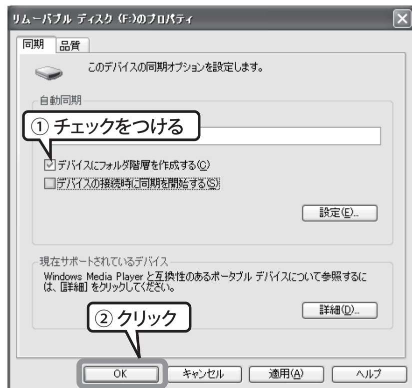
6



同期の設定を変更する

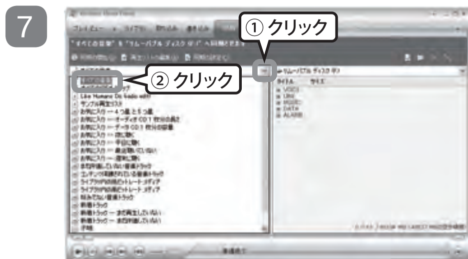
上図のように画面右上の[ ]をクリックします。

つづく



[自動同期設定]の[デバイスにフォルダ階層を作成する]にチェックをつけ、[OK]をクリックします。

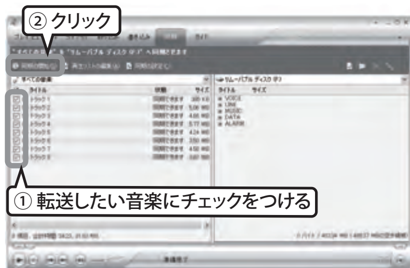
7



転送する音楽を選択する

上図のように左側ウィンドウの[ ]をクリックし、表示されるプルダウンメニューから[すべての音楽]をクリックします。

8



同期を開始する

左側ウィンドウにWindows Media Playerに登録されているすべての音楽が表示されますので、転送したい曲にチェックをつけて、[同期の開始]ボタンをクリックします。

9



[MUSIC]の中に[アーティスト]⇒[アルバム]の順にフォルダ階層が作成され、その中に音楽ファイルが転送されていることを確認してください。ルートディレクトリに転送されている場合は、本機で再生できませんので、設定を確認してからもう一度[同期]を行ってください。

同期完了

「状態」が、[完了]と表示され、画面右側に転送したファイルが表示されれば転送は完了です。

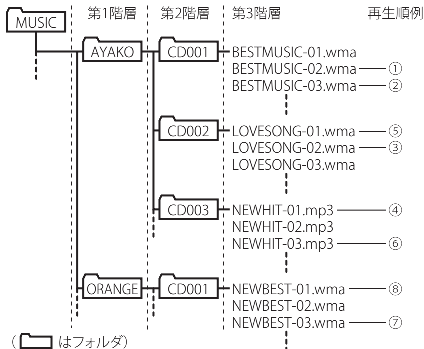
お好きな曲順で再生するには

■プレイリストの作成

パソコンでプレイリストを作成すると、ご希望の順番で曲再生ができます。

- 対応しているプレイリストファイルはM3U形式（MP3などのプレイリストを規定したファイルで、拡張子は「.m3u」）です。

> ● プレイリストで再生順序が指定できるのはMUSICフォルダ内のファイルのみです。
> ● ファイル形式によっては再生順序を指定できない場合があります。



1. [スタート]-[すべてのプログラム(P)]-[アクセサリ]-[メモ帳]をクリックする
2. MUSICフォルダ内のファイル名を再生したい順番に入力する
   - プレイリストに記載するファイル名は、図のようにドライブ名（F:）￥フォルダ名￥ファイル名と入力してください。

例）フォルダが2階層ある場合



（フォルダ階層がある場合は、"￥ "で区切って入力します）

ファイル名を正しく入力するには、プレイリストに記載したい音楽ファイルのプロパティを確認し、表示しているファイル名をコピーしたあと、プレイリスト作成中のメモ帳へ貼り付けることをおすすめします。

フォントや大文字、小文字、ブランクの有無などを気遣うことなく、正しく簡単にプレイリストを作成することできます。

- 文字数が多すぎると再生できないことがあります。目安として200文字以内で入力してください。


ドライブ名は"F"以外の任意の半角のアルファベット(1文字)にすることもできます。(例)"A"、"a"など

3 [ファイル]-[名前をつけて保存]を選んで、ファイル名を"○○○(ファイル名).m3u"として保存する

4 保存したプレイリストをエクスプローラなどで本機のMUSICフォルダに転送する

5 本機をパソコンから取り外す

「パソコンから取り外す」☞106ページ

再生方法は☞60ページ


一般領域とセキュリティ領域にまたがって再生することはできません。
例えば、一般領域やセキュリティ領域にあるファイル名をプレイリスト上に記載してあっても、そのプレイリストが一般領域にあれば一般領域だけ、セキュリティ領域にあればセキュリティ領域にあるファイルだけ再生します。

■フォルダの作成

本機では、MUSICフォルダ以下2階層までフォルダを作成できます。「フォルダの階層について」☞63ページ
アーティスト別にフォルダを作成したり、アルバムの各曲を1つのフォルダ内に転送したりすることによって、アルバムやアーティストごとに再生することができます。

- 再生できるのはMUSICフォルダの2つ下の階層のフォルダまでです。

再生方法は☞61ページ

本機が正常に認識されているか確認するには

■Windows Vista

本機をパソコンに接続した状態で、以下の確認作業をおこなってください。

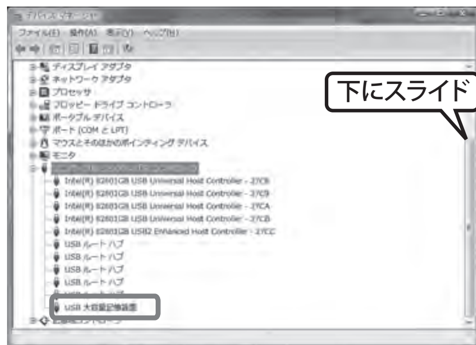
[スタート]メニューの「コンピュータ」アイコンの上で右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]を選択して[システム]画面を開きます。

[デバイスマネージャ]をクリックし、表示されるユーザーアカウント制御画面から[続行]を選択して[デバイスマネージャ]画面を開きます。

[ディスクドライブ]及び[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]に下図のデバイスが表示されていれば正常です。

＜Windows Vista＞





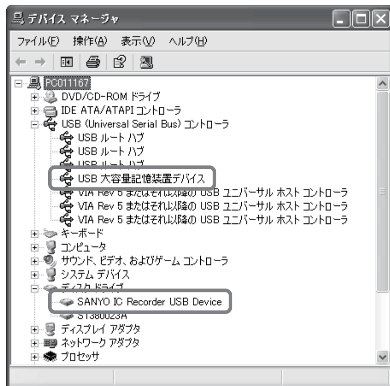
■Windows XP、Windows 2000

本機をパソコンに接続した状態で、以下の確認作業をおこなってください。

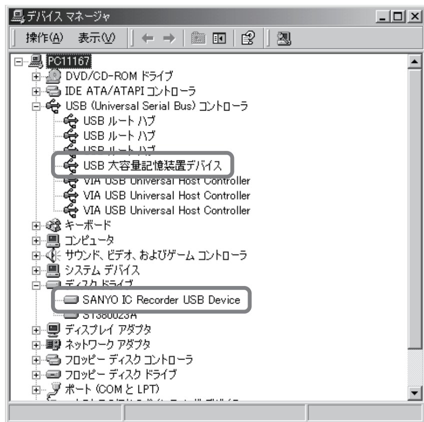
[スタート]メニュー(またはデスクトップ上)の[マイコンピュータ]アイコンの上で右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]を選択して[システムのプロパティ]画面を開きます。

[ハードウェア]タブ内の[デバイスマネージャ]をクリックしてデバイスマネージャ画面を開き、[ディスクドライブ]および[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]に下図のデバイスが表示されていれば正常です。

＜Windows XP＞



＜Windows 2000＞



つづく

本機が正常に認識されているか確認するには(つづき)

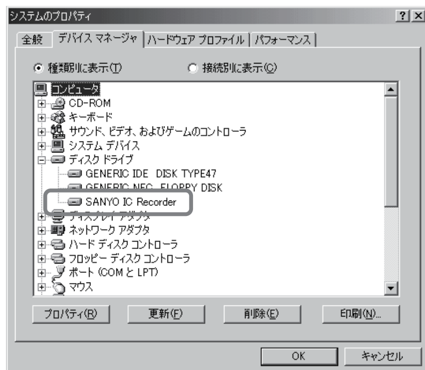
■Windows Me

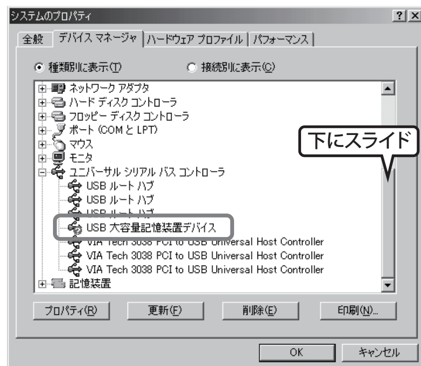
本機をパソコンに接続した状態で、以下の確認作業をおこなってください。

デスクトップ上の[マイコンピュータ]アイコンの上で右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]を選択して[システムのプロパティ]画面を開きます。

[デバイスマネージャ]タブをクリックしてデバイスマネージャ画面を開き、[ディスクドライブ]および[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]に下図のデバイスが表示されていれば正常です。

＜Windows Me＞





■デバイスマネージャで正しく表示されなかったら？

以下の手順で確認を行ってください。

1. 起動中のアプリケーションはすべて終了させてください。
2. 接続されている他のUSB機器（正しく動作しているマウス・キーボードは除く）はすべて取り外して、本機を単独で接続してください。
3. パソコンにUSB端子が複数ある場合（前面・背面など）は、別のUSB端子に本機を接続してください。
4. バスパワー型USBハブ（USB端子分配用周辺機器）を介して本機を接続している場合は、一旦ハブを取り外してパソコンのUSB端子に直接付属の専用USB接続ケーブルを使用して本機を接続してください。

接続するUSBケーブルは、必ず付属の専用USB接続ケーブルを使用してください。

故障かな?と思う前に

販売店にご相談になる前に、下記をお確かめください。
直らない場合は、お買い上げの販売店へご相談ください。

本機が動作しない

原因	電池が正しく入っていないか、電池切れである
解決方法	電池が正しく入っていることを確認してください。 一度電池を完全に抜いてから、電池を正常に入れ直してください。または充電するか新しい電池に換えてください。 16ページ「電池を入れる」参照

ボタンまたはスイッチを押しても反応しない

原因	誤動作防止機能(ホールド機能)が設定されている
解決方法	誤動作防止機能(ホールド機能)を解除してください。 21ページ「ホールドON/OFF」参照

原因	USB接続したままである
解決方法	本機をパソコンから取り外してください。 106ページ「パソコンから取り外す」参照

セキュリティ領域が選択できない

解決方法	停止中[フォルダ]を長押ししてください。 89ページ「セキュリティ領域への切り替え方法」参照

パソコンに接続して、エネループが充電できない

原因	電池切換が「アルカリ電池」に設定されている
解決方法	電池切換を「エネループ」に設定してください。 98ページ「設定する—電池切換」参照

原因	本機をパソコンに接続しただけである
解決方法	接続しただけでは自動的に充電されません。充電操作をしてください。 108ページ「エネループを充電する」参照

充電すると ⊠ を表示する

原因	・エネループ以外の電池を入れて充電しようとした ・本機に電池を入れずに充電しようとした ・電池が正しく入っていない
解決方法	本機にエネループを入れて充電してください。

原因	本機の温度が上がっている
解決方法	本機をパソコンから取り外して、しばらく放置してから再充電してください。

音声が聞こえない

原　　　因	音量が小さい
解 決 方 法	音量を調節してください。 56ページ「音量調節」参照

VOICE（およびVOICE_S）フォルダ内のファイルが再生できない

原　　　因	ファイル名が異なる
解 決 方 法	パソコンでファイル名を変更するとVOICEに戻しても再生できなくなりますが、MUSIC（M）フォルダに転送すると再生できるようになります。

原　　　因	本機で録音したWAV形式の音声ファイルではない
解 決 方 法	本機以外で録音したWAV形式の音声ファイルの再生はできません。

MUSICフォルダに転送したファイルが見つからない

原　　　因	セキュリティ領域のMUSICフォルダに転送した
解 決 方 法	セキュリティ領域のMUSICフォルダに切り替えてください。 89ページ「セキュリティ領域への切り替え方法」

MUSIC（M）フォルダ内のファイルが再生できない、または正しく再生できない

原　　　因	・再生できるファイル形式ではない ・著作権保護されているファイルは、エクスプローラで転送しても再生できません。Windows Media Playerで転送してください。 134ページ「Windows Media Playerで音楽ファイルを転送する」
解 決 方 法	正常に再生できるWMA形式またはMP3形式のファイルをご使用ください。

原　　　因	本機で録音したWAV形式の音声ファイルではない
解 決 方 法	本機以外で録音したWAV形式の音声ファイルの再生はできません。

原　　　因	転送先が異なる
解 決 方 法	パソコンからファイルを転送するときに、MUSIC（M）フォルダ以外のフォルダに入れても、本機で再生できません。必ずリムーバブルディスク内のMUSIC（M）フォルダ内に転送してください。 126ページ「エクスプローラで音楽ファイルを転送する」参照

つづく

原　　因	本機で再生できないファイルとなっている
解決方法	エンコーダー (MP3・WMA変換)ソフトを別のものに変えてファイルを作成してください。

原　　因	プレイリストに書かれているファイルがMUSIC(M)フォルダ内にない
解決方法	プレイリストからそのファイル名を削除するか、MUSIC(M)フォルダ内にそのファイルを転送してください。

原　　因	転送方法が異なる
解決方法	著作権保護されているファイルは、エクスプローラで転送しても再生できません。Windows Media Playerで転送してください。 134ページ「Windows Media Playerで音楽ファイルを転送する」

ファイル分割ができない

原　　因	メモリの空き容量が足りない
解決方法	不要なファイルを消去してください。 72ページ「1件消去する」参照

原　　因	ファイルの録音時間が短すぎる
解決方法	ファイル分割は録音時間の長いファイルでおこなってください。 PCM…約1秒以上、XHQ…約4秒以上、 HQ…約8秒以上、SP…約16秒以上、 LP…約32秒以上

ファイルが消去できない

原　　因	ファイルの属性が読み取り専用に設定されている
解決方法	本機をパソコンに接続して、ファイルの属性を変更するか、ファイルを消去してください。または、内蔵メモリのフォーマット(初期化)をおこなってください。 77ページ「内蔵メモリ内の全データを消去する(フォーマット)」参照

PC接続時に、リムーバブルディスクが表示されない

原　　因	パソコンと本機が正しく接続されていない
解決方法	パソコンのUSB端子に最後まで正しく差し込まれているか、またUSBケーブル使用時は本機側のUSB端子が正しく最後まで差し込まれているかどうか確認してください。 104ページ「パソコンに接続する」参照

原　　　因	Windows 98, 98SEのPCおよびMacintoshに接続している
解 決 方 法	Windows 98, 98SE及びMacintoshはサポートしていません。

原　　　因	パソコンからの電源供給が不十分
解 決 方 法	バスパワー型USBハブを利用している場合は、パソコン本体のUSB端子と本機を直接接続するか、またはセルフパワー型（電源アダプター付）のUSBハブを使用してください。または、パソコン本体に複数USB端子がある場合は、他のUSB端子に接続してください。 104ページ「パソコンに接続する」参照

原　　　因	ネットワークドライブが割り当てられている
解 決 方 法	ネットワークドライブが割り当てられていると、ドライブレター（ドライブ名を表すアルファベット）がぶつかり、リムーバブルディスクが作成されない場合があるので、ネットワークドライブの割り当てを変更してから再度接続してください。 ネットワークドライブの割り当てについてはネットワーク管理者などにお聞きください。

原　　　因	パソコンと本機が正しく接続されない
解 決 方 法	パソコンと本機が正しく認識しない場合、再度接続してください。 本機に対応するパソコン以外に接続されても動作保証いたしません。 102ページ「動作環境」参照

原　　　因	セキュリティ設定が「設定」で、再生ロック状態である
解 決 方 法	再生ロックを「解除」してから、本機の電源を入れたままパソコンに接続してください。 87ページ「セキュリティの設定をする」参照

原　　　因	本機の電源を切った状態でパソコン接続した。（セキュリティが「設定」で再生ロックが「解除」の状態の時）
解 決 方 法	電源を切ると再生ロック中に切り換わるため、電源を切った状態でパソコン接続すると表示されません。本機の電源を入れたままパソコンに接続してください。 112ページ「セキュリティ設定とパソコン上のリムーバルディスク表示について」参照

つづく

故障かな?と思う前に(つづき)

音声ガイドが使用できない

原　　因	BEEP音設定が音声ガイドになっていない
解 決 方 法	メニューモードでBEEP音設定を音声ガイドにしてください。 97ページ「設定する-BEEP音設定」参照

パソコンから本機へのファイルの転送速度が遅い

原　　因	パソコンのUSB1.1に接続している
解 決 方 法	USB2.0のHigh Speed対応USB端子に接続してください。

録音するとノイズが聞こえる

原　　因	録音モードやマイク感度が適切でない
解 決 方 法	録音モードやマイク感度を切り換えてためし録音しながら、最適な録音環境に設定してください。 37ページ「録音モード(音質)を変える」参照 41ページ「お好みのマイク感度に設定する(マイクALC ON」参照 43ページ「お好みのマイク感度に設定する(マイクALC OFF」参照

解 決 方 法	メモリ診断後、問題があれば内蔵メモリのフォーマット(初期化)をおこなってください。 31ページ「メモリ診断」参照 77ページ「内蔵メモリ内の全データを消去する(フォーマット)」参照

PC接続時に、本体に接続アイコン表示がでない

解 決 方 法	パソコンによっては、パソコンに接続した時に、本体に接続アイコン表示がでない場合や、パソコン側で本体が認識されない場合があります。その時は本体をパソコンより抜いて再度接続してください。

カレンダーが正しく表示されない

解 決 方 法	日時を再設定してください。 22ページ「カレンダー(日時)を設定する」参照

"FAT Err"と表示されて動作できない

原　　因	ＦＡＴ管理システムのエラー
解 決 方 法	内蔵メモリのフォーマット(初期化)をおこなってください。 77ページ「内蔵メモリ内の全データを消去する(フォーマット)」参照

ごみ箱が表示されない

原　　因	ごみ箱の設定がOFFになっている
解決方法	ごみ箱機能の設定をONにしてください。 65ページ「ごみ箱機能を「ON」に設定する」参照

ファイルを削除したのに容量が減らない

原　　因	ごみ箱の設定がONになっている
解決方法	ごみ箱の中身を消去してください。 70ページ「ごみ箱内のファイルを空にする」参照

よくあるご質問(Q&A)

Q：マンガン電池などは使えますか？

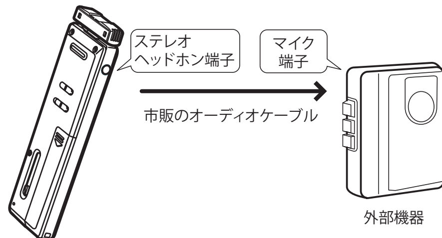
A：マンガン電池、ニカド電池は使用できません。オキシライド電池も使えますが、電池の持続時間はアルカリ電池の場合とほぼ同じになります。

Q：再生音にガサガサ雑音が入るのはなぜ？

A：録音中に本体や本体を握っている手や指を動かすと、その音が録音されてしまいます。録音中はできるだけ本体を動かさないようにしてください。

Q：録音内容をテープ・MDなどに保存するには?

A：市販のオーディオケーブル(ミニプラグ:3.5ø)を使えば、本機で録音したファイルを、簡単にテープレコーダーやMDレコーダーなどの外部機器にダビングして保存することができます。



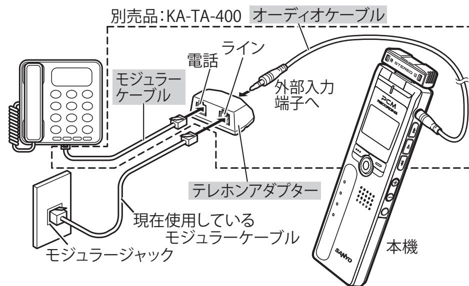
使用するオーディオケーブル

外部機器側	オーディオケーブル
マイク入力	ミニプラグ:3.5ø、抵抗入り
音声ライン入力	ミニプラグ:3.5ø、抵抗なし

- ステレオのオーディオケーブルをご使用ください。
- ダビングする時は、事前にためし録音をし、本機で音量の調節を行ってください。
- テープレコーダーやMDプレーヤーから本機への録音も可能です。☞48ページ

Q：家庭用固定電話の音声を録音するには？

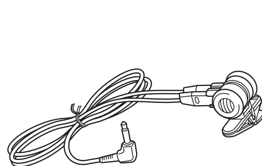
A：別売の電話録音キットKA-TA-400を以下のようにきちんと奥まで差し込んで接続してください。



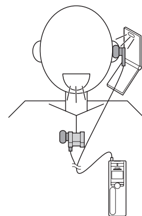
- ビジネスホンやホームテレホンなど対応していない電話機があります。
- 携帯電話を録音したい場合は市販の録音アダプタをご購入ください。

Q：携帯電話の音声を録音するには？

A：別売品：3WAYステレオマイク「HM-250」を使って録音できます。家庭用電話または、ビジネスホンなどの会話を録音するときも便利です。



3WAYステレオマイク「HM-250」



Q：取扱説明書に記載されている録音可能時間は、1つのファイルごとの録音可能時間ですか？

A：いいえ、ちがいます。各録音モードの録音可能時間とは、メモリ内に録音ファイルが何もない状態で、録音モードを変えることなく最初から最後まで録音した場合の合計時間です。例えば、1ファイルでメモリが一杯になるまで録音すると、ファイルやフォルダを変更してもそれ以上は録音できません。

つづく

Q：うまく録音するコツは？

A：録音場所や周囲の状況により録音状態が異なりますので、事前に試し録音をして適切な録音モードや感度を選択してください。

Q：パソコンにいったん保存した録音ファイルを、本機に再び戻したら再生できなくなりました。

A：パソコンでファイル名を変更している場合
MUSICフォルダに戻してください。例えば、本機”A"フォルダに録音された音声ファイルをパソコンに保存した際、ファイル名を変更していた場合、そのファイルを元の”A"フォルダに戻しても再生できません。ファイル名を変更した場合は、”MUSIC"フォルダに入れると再生できます。

A：MUSICフォルダに戻しても再生できない場合
ファイル名の最後に拡張子"mp3"をつけてください。例えば、ファイル名を変更した際、拡張子の付け忘れ、あるいは"mp3"以外の拡張子になっていると、MUSICフォルダ内でも再生できません。

A：VOICEフォルダに戻したい場合
ファイル名規則（☞28ページ）に沿ったファイル名であることを確認し、VOICEフォルダへ入れます。例えば、"IC_A_001.mp3"のファイルは、"A"フォルダに戻します。その他のフォルダ（B、C 及び D)フォルダに戻しても再生できません。

その他のよくあるご質問ならびにソフトウエアのバージョンアップ情報については、当社ホームページのサポートページ http://www.sanyo-audio.com/support/icr/ にて随時更新しています。そちらも併せてご覧ください。

お手入れについて

柔らかい布でふいてください。汚れがひどいときは、柔らかい布でからぶきをしてください。

- ベンジンやアルコール、シンナーなどでふいたりしますと、変質、変色することがありますので使用しないでください。また、殺虫剤もかからないようにご注意ください。

温度上昇について

本機を長時間お使いになると、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。

主な仕様

内蔵メモリ	：	4GB
録音時間（一般領域とセキュリティ領域の合計時間です）	：	約557時間（LP時） 約278時間（SP時） 約139時間（HQ時） 約69時間（XHQ時） 約6時間（PCM時）
対応OS	：	Windows Vista/XP/2000/Me
録再周波数特性	：	40〜3,500Hz（内蔵マイクLP時） 40〜3,500Hz（内蔵マイクSP時） 40〜7,500Hz（内蔵マイクHQ時） 40〜15,000Hz（内蔵マイクXHQ時） 40〜20,000Hz（内蔵マイクPCM時）
録音フォーマット	：	MP3・PCM
再生フォーマット	：	MP3（MPEG1 LAYER3、MPEG2 LAYER3、MPEG2.5 LAYER3）・WMA・PCM（本機で録音したファイルのみ）
再生周波数	：	20〜20,000Hz
サンプリング周波数	：	16〜44.1kHz
再生対応ビットレート※1	：	16〜320kbps（MP3） 32〜192kbps（WMA） ※1ファイルによっては正常に再生できない場合があります。
S/N比	：	82dB
入・出力端子	：	USB/ステレオヘッドホン3.5øミニ/ステレオマイク（ライン入力兼用）3.5øミニ
動作温度	：	＋5℃〜＋35℃
定格出力（ヘッドホン）	：	10mW＋10mW(16Ω負荷時、JEITA/DC)
電源	：	単4形エネループ（単4アルカリ電池）×1本 AC電源
電池持続時間（JEITA）	：	

連続録音時間

［SP時］	：	約25時間（アルカリ電池） 約19時間（エネループ）
［PCM時］	：	約9時間（アルカリ電池） 約8時間30分（エネループ）

(録音モード：録音LED/バックライト：OFF、録音モニター：なし)

連続再生時間

［MP3］	：	約22時間（アルカリ電池） 約17時間（エネループ）
［PCM］	：	約9時間30分（アルカリ電池） 約9時間30分（エネループ）

(ヘッドホン再生時、バックライト：OFF)

連続再生時間

［MP3］　：約14時間（アルカリ電池）
　　　　　　約11時間（エネループ）

［PCM］　：約6時間（アルカリ電池）
　　　　　　約6時間（エネループ）

(スピーカー再生時、バックライト：OFF)

※連続録音再生時間は、電池の種類、メーカー、保管状態、使用条件、使用周囲温度などによって変わります。上記の時間はあくまで目安であり、保証するものではありません。アルカリ電池、もしくは当社製充電池（エネループ）以外での動作保証はいたしません。

最大外形寸法　：幅34.2×高さ119.7×奥行き13 (mm)

質量　：約49g（エネループ含む）

付属品　：インナーイヤー型ステレオヘッドホン (1)
専用USB接続ケーブル (1)
単4形エネループ (1)
本書（保証書付） (1)
かんたん操作ガイド (1)

※内蔵メモリには、本機の動作に必要なソフトウェアなどが含まれており、お客さまが実際にご利用いただける使用可能領域は表示容量より少なくなります。

※内蔵メモリの特性により、録音時間が短くなることがあります。

※本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書について

- この商品には保証書がついています。お買い上げの際、販売店が発行します。
- 所定事項の記入をご確認のうえ内容をよくお読みになって、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より本体のみ1年間です。

アフターサービスについて

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の144ページからをもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店か、または「お客さまご相談窓口」にご相談ください。

お問い合わせの際、電池を入れるところの内側に貼ってあるラベルに書かれた製造番号（シリアルナンバー）をお知らせください。

保証期間中の修理は

保証書の規定に従い、お買い上げの販売店が修理させていただきます。製品に保証書を添えてご持参ください。

保証期間経過後の修理は

修理により機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。

部品の保有期間について

ステレオデジタルボイスレコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の保有期間は、製造打ち切り後6年間です。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店または「お客さまご相談窓口」にご相談ください。

お客さまご相談窓口

まずはお買い上げ販売店へ

家電製品の修理のご依頼やご相談は、お買い上げ販売店へお申し出ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は

下記の相談窓口にお問い合わせください。
総合相談窓口：家電製品についての全般的なご相談
修理相談窓口：修理サービスについてのご相談

総合相談窓口（全般的なご相談）
三洋電機（株）　お客様センター

相談受付時間　　9:00～18:30 (365日)

☎ 050-3116-3434

※上記番号をご利用できない場合は
大阪 (06)6994-9570 におかけください。

※郵便・FAXでご相談される場合
三洋電機(株)　お客さまセンター
FAX　(06) 6994-9510
〒570-8677　大阪府守口市京阪本通2-5-5

家電商品の修理サービスについてのご相談　<三洋電機サービス株式会社>

受付時間　月曜日～金曜日　[9:00～18:30]
　　　　　土曜・日曜・祝日・当社休日　[9:00～17:30]

東コールセンター

関東・甲信越地区	050-3116-2222 東京(03)5302-3401
北海道地区	050-3116-2333
東北地区	050-3116-2444

西コールセンター

近畿・北陸・四国地区	050-3116-2555 大阪(06)4250-8400
中部地区	050-3116-2666
中国地区	050-3116-2777
九州地区	050-3116-2888

沖縄地区※	098-944-5018

※受付時間：月曜日～土曜日9:00～12:00、13:00～17:30
（日曜、祝日および当社休日を除く）

持込み修理および部品についてのご相談　<三洋電機サービス株式会社>

受付時間　月曜日～金曜日9:00～17:30（日曜、祝日を除く）
ご相談は、各地区サービスセンターで承っております。最寄の拠点は別記一覧もしくはホームページでご確認ください。http://www.sanyo.co.jp



お客さまご相談窓口（つづき）

お客さまご相談窓口における お客さまの個人情報のお取り扱いについて

お客さまご相談窓口でお受けした、お客さまのお名前、ご住所、お電話番号などの個人情報は適切に管理致します。また、お客さまの同意がない限り、業務委託の場合および法令に基づき必要と判断される場合を除き、第三者への開示はおこないません。

<利用目的>

- お客さまご相談窓口でお受けした個人情報は、商品・サービスに関わるご相談・お問合わせおよび修理の対応のみを目的として用います。なお、この目的のために三洋電機（株）および関係会社で上記個人情報を利用することがあります。

<業務委託の場合>

- 上記目的の範囲内で対応業務を委託する場合、委託先に対しては当社と同等の個人情報保護を行わせるとともに、適切な管理・監督をいたします。

個人情報のお取り扱いについての詳細は、ホームページ http://www.sanyo.co.jp をご覧ください。

北海道地区			
札幌	(011) 831-9201	〒003-0013	札幌市白石区中央三条4-1-36
函館	(0138) 48-8301	〒041-0824	函館市西桔梗町589-295
旭川	(0166) 22-2421	〒070-0073	旭川市曙北三条7-3-3
北見	(0157) 23-4871	〒090-0037	北見市山下町4-7-14
釧路	(0154) 22-1576	〒085-0035	釧路市共栄大通3-1-6

東北地区			
仙台	(022)287-8351	〒984-0032	仙台市若林区荒井字丑ノ頭43-1
青森	(017)729-3401	〒030-0141	青森県青森市上野字山辺29-5
盛岡	(019)623-1600	〒020-0824	岩手県盛岡市東安庭2-12-1
山形	(023)641-1769	〒990-2331	山形県山形市飯田西4-5-35
秋田	(018)862-6551	〒011-0901	秋田県秋田市寺内イサノ93-1
郡山	(024)945-6793	〒963-0107	福島県郡山市安積3-120

関 東・甲信越 地 区			
さいたま	(048) 778-3095	〒362-0025	埼玉県上尾市上尾下780-1
坂　　戸	(049) 284-8900	〒350-0214	埼玉県坂戸市千代田5-3-17
宇 都 宮	(028) 614-3883	〒321-0111	栃木県宇都宮市川田町字免ノ内765-5
つ く ば	(0298) 64-4751	〒300-3261	茨城県つくば市花畑2-15-3
水　　戸	(029) 251-4125	〒311-4152	茨城県水戸市河和田3-2386-1
伊 勢 崎	(0270) 40-7611	〒372-0003	群馬県伊勢崎市華蔵寺町87-1
新　　潟	(025) 285-2431	〒950-0942	新潟県新潟市中央区小張木2-16-43
城　　東	(03) 5697-8160	〒120-0005	東京都足立区綾瀬7-22-15綾瀬7丁目ビル
城　　北	(03) 5914-3413	〒174-0051	東京都板橋区小豆沢1-23-10
城　　西	(03) 5347-0761	〒167-0032	東京都杉並区天沼3-12-12テック杉並
武 蔵 野	(042) 364-7721	〒183-0033	東京都府中市分梅町5-9-1
横　　浜	(045) 827-2831	〒224-0806	神奈川県横浜市戸塚区上品濃9-14
相 模 原	(042) 788-2760	〒194-0012	東京都町田市金森851-3
千　　葉	(043) 208-3800	〒260-0842	千葉県千葉市中央区南町3-7-15
鎌 ケ 谷	(047) 441-0111	〒273-0105	千葉県鎌ケ谷市鎌ケ谷7-6-59
甲　　府	(055) 226-2561	〒400-0035	山梨県甲府市飯田4-8-23

中 部 地 区			
名 古 屋	(052) 485-3620	〒453-0816	愛知県名古屋市中村区京田町2-1
岐　　阜	(058) 246-3417	〒501-6006	岐阜県羽島郡岐南町伏屋1-35
静　　岡	(054) 236-0691	〒422-8034	静岡市駿河区高松2-26-10
沼　　津	(055) 935-0501	〒410-0822	静岡県沼津市下香貫七面1152-2
浜　　松	(053) 461-8685	〒430-0812	静岡県浜松市南区本郷町123
松　　本	(0263) 40-3411	〒390-0852	長野県松本市島立1064-1
金　　沢	(076) 292-2060	〒921-8005	石川県金沢市間明町2-100
富　　山	(076) 422-7020	〒939-8211	富山県富山市二口町1-13-8
福　　井	(0776) 53-7134	〒910-0834	福井県福井市丸山1-1002
津	(059) 236-5195	〒514-0111	三重県津市一身田平野285-2

つづく

お客さまご相談窓口（つづき）

近　畿　地　区

大　　阪	(06) 6992-6235	〒570-0086	大阪府守口市竹町4-13
大　阪　南	(06) 6761-4600	〒543-0001	大阪府大阪市天王寺区上本町5-1-14三洋ビル2F
阪　　和	(072) 221-8571	〒590-0026	大阪府堺市堺区向陵西町2-1-24
京　　都	(075) 645-1434	〒612-8427	京都市伏見区竹田真幡木町26-1
奈　　良	(0744) 22-7888	〒634-0817	奈良県橿原市寺田町113-1
滋　　賀	(077) 514-2221	〒524-0021	滋賀県守山市吉身4-1-24南井産業第3ビルB棟
和　歌　山	(073) 473-7112	〒640-8301	和歌山県和歌山市岩橋1636-1
神　　戸	(078) 641-1251	〒653-0038	兵庫県神戸市長田区若松町2-1-9　ピアザビル3F
阪　　神	(06) 6432-3401	〒661-0026	兵庫県尼崎市水堂町4-17-6
姫　　路	(0792) 82-7892	〒670-0943	兵庫県姫路市市之郷町1-9
淡　　路	(0799) 42-6015	〒656-0478	兵庫県南あわじ市市福永536-1

中　国　地　区

広　　島	(082) 293-6511	〒733-0012	広島県広島市西区中広町2-1-2
福　　山	(084) 954-4101	〒721-0952	広島県福山市曙町4-22-10
岡　　山	(086) 245-1634	〒700-0973	岡山県岡山市下中野703-101
鳥　　取	(0857) 24-2930	〒680-0843	鳥取県鳥取市南吉方3-107
松　　江	(0852) 23-1183	〒690-0044	島根県松江市浜乃木2-15-3
山　　口	(083) 973-3391	〒754-0024	山口県山口市小郡若草町2-6

四　国　地　区

松　　山	(089) 979-3486	〒799-2655	愛媛県松山市馬木町274
高　　松	(087) 843-1840	〒761-0101	香川県高松市春日町片田1657-1
高　　知	(088) 831-2570	〒780-8007	高知県高知市仲田町6-12
徳　　島	(088) 699-4131	〒771-0219	徳島県板野郡松茂町笹木野字八北開拓189-1

九　州　地　区			
福　　岡	(092) 441-2541	〒812-0016	福岡県博多区博多駅南4-6-23
北　九　州	(093) 521-5286	〒802-0004	福岡県北九州市小倉北区 鍛治町2-4-7
長　　崎	(095) 813-3545	〒851-0101	長崎県長崎市古賀町1006-5
熊　　本	(096) 388-3434	〒861-8045	熊本県熊本市小山3-2-11 熊本トラックターミナル内
大　　分	(097) 543-3454	〒870-0829	大分県大分市椎迫5-6組
宮　　崎	(0985) 29-3441	〒880-0022	宮崎県宮崎市大橋3-224
鹿　児　島	(099) 251-4615	〒890-0068	鹿児島県鹿児島市東郡元町 11-10

沖　縄　地　区			
沖　　縄	(098) 944-5018	〒903-0103	沖縄県中頭郡西原町小那覇1303 沖縄三洋販売（株）サービス部

（010407Ja）

☆住所・電話番号は、ご通知なしに変更することがありますので、ご了承ください。

無料修理規定

お買い上げの日から保証期間中に、取扱説明書、本体ラベルその他の注意書きに従った使用状態で故障した場合には、本書記載内容にもとづき、お買い上げの販売店が無料修理いたしますので、商品と本書をご持参ご提示ください。

1. 保証期間でも次のような場合には有料修理となります。
   イ. 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
   ロ. お買い上げ後の取付場所の移動、落下、引っ越し、輸送等による故障または損傷。
   ハ. 火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変ならびに公害や異常電圧その他の外部要因による故障または損傷。
   ニ. 業務用としての使用、車両・船舶への搭載など一般家庭以外に使用された場合の故障または損傷。
   ホ. 本書の提示がない場合。
   ヘ. 本書にお買い上げ年月日、お客さま名、販売店名の記入がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
   ト. 消耗品の交換・仕様変更など。
2. 保証期間内でも商品を修理窓口へ送付された場合の送料や出張修理をおこなった場合の出張料はお客様の負担となります。
3. ご転居の場合は事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
4. ご贈答品等で本書に記入の販売店に修理をご依頼になれない場合には、「お客さまご相談窓口」をご覧のうえ、もよりの窓口にお問い合わせください。
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
   Effective only in Japan.
6. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明な場合は、お買い上げの販売店または「お客さまご相談窓口」にお問い合わせください。

- 保証期間経過後の修理または補修用性能部品の保有期間について詳しくは「保証書とアフターサービス」をご覧ください。

MEMO

三洋電機株式会社

パーソナルモバイルグループ　DIカンパニー　国内販売担当

〒574-8534　大阪府大東市三洋町1番1号

ユーザーサポートホームページアドレス　http://www.sanyo-audio.com/support/index.html

(JP0)

1AJ6P1P0037--